慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	石井十次の移民事業 : 明治四一年から四二年の茶臼原孤児院日誌
Sub Title	Immigration of the orphans led by Ishii Juji : a diary of the Cha-usu-baru Orphanage from Nov. 1908 (Meiji 41) to Dec. 1909 (Meiji 42)
Author	小野, 修三(Ono, Shuzo)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2007
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 社会科学 (The Hiyoshi review of the social sciences). No.18 (2007.) ,p.52(71)- 122(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10425830-20080331-0052

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

石井十次の移民事業

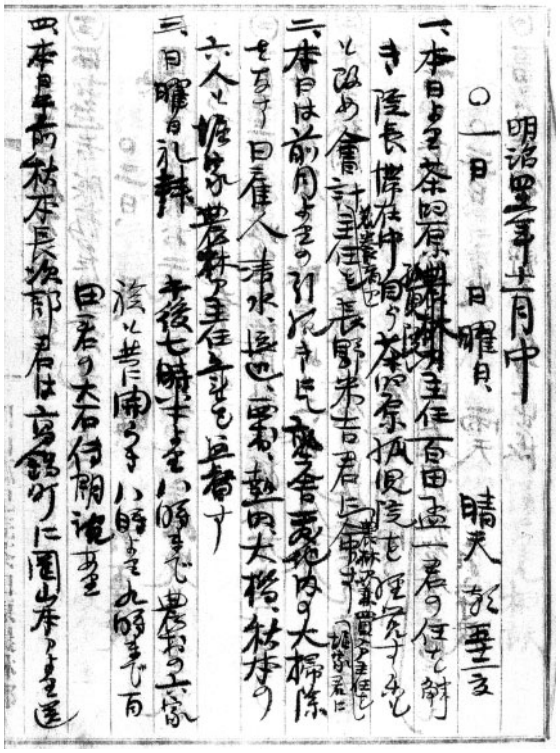
――明治四一年から四二年の茶臼原孤児院日誌――

小野修三

解題・凡例

一、本稿は、その表紙には「明治四十一年十一月一日　日誌　茶」という文字（墨筆）と、その「茶」に続く「臼原」という別人の手になる文字（サインペン）が見え、本文では岡山孤児院茶臼原農林部と印刷された罫紙（赤色罫線）と岡山孤児院と印刷された罫紙（青色罫線）に対して墨筆で記され、和綴じにされた、明治四一年一一月一日から明治四二年一二月三一日までの間の出来事に関する日誌をその複写物から翻刻したものである。別人の手が表紙に入った理由は、表紙に何らかの原因で破損が生じ、元の文字の一部分が消えてしまったためであろうと推測されるが、「日誌　茶臼原」の次に、さらに文字が続いていたようにも見える。

二、この日誌原文は宮崎県児湯郡木城町所在の石井十次資料館において整理番号A‐2‐93として整理・保管されているもので、今回石井記念友愛社理事長児嶋草次郎氏の許可を頂き、翻刻するものである。明治二〇年に石井十次が始めた岡山孤児院はその創設二〇年を迎えた明治四〇年に大阪事務所、東京事務所という分院を誕生させ、対外的な展開を見せるが、それ以前に宮崎県児湯郡茶臼原にも分院を誕生させていた。その茶臼原の分院は、罫紙の印刷では「岡山孤児院茶臼原農林部」とあるわけだが、宮崎県の地元紙の日州新聞社が明治四一年一一月の段階ではこれを「岡山孤児院茶臼原農業部」と呼んでいたことも、本稿において確認される。それを石井十次は翌一二月には「岡山孤児院支部茶臼原孤児院」と公けに改称する。石井自身としては、しかし、日誌が書き始められる一一月の



時点で「茶臼原孤児院」の名を用いようとしていたことが、本文冒頭の個所から見て取ることが出来る。名称の問題はさておき、本国たる岡山孤児院からの植民地の独立宣言がこの「日誌　茶臼原」に当たると言えよう。そして、この日誌は茶臼原孤児院誕生の過程をつぶさに観察出来るという意味で貴重な史料であるだけではなく、より一般的に「移民事業」という形での孤児の就職先の確保の営みを、石井十次と並ぶ他の事業者たちの場合と比較する上での好材料の提供という意味もあると考えている。

三、本稿はこの日誌の原文と、この日誌に挟み込まれ、あるいはまた糊付けされた文面を共に翻刻している。日誌本体は筆記された計一一三枚の、半葉一二行の罫紙を袋綴じにしたもので、その内訳は、先に指摘した赤色罫線の岡山孤児院茶臼原農林部と印刷されたものが最初の九八枚、それに続く部分が青色罫線の岡山孤児院と印刷された一五枚の合計一一三枚である。罫紙が袋綴じにされ、表紙が付けられたのは、筆記終了後であることは容易に想像されるわけだが、本体以外の部分、すなわち挟み込まれた来翰が一通、糊付けされた来翰二通が付属している。これらの書翰もやはり筆記作業の終了後に付加されたものであろう。これらは日誌本文とは別な形で翻刻した方がその存在が明確になると思われるが、本文とも関連していている内容なので、そしてまさにこの日誌をいつかの時点で今日の形に整理した際の意図がそのようであったように、今回の翻刻でも日誌本文に割り込む形で翻刻する方針を取った。挟み込まれていた一通とは、明治四一年一二月二二日付の個所に対応する、岡山孤児院茶臼原農林部宛の高鍋町立光履物店からの書翰であり、糊付けされた二通とは、一つは明治四二年二月三日付の個所に対応する、茶臼原孤児院宛の川南村多

賀尋常小学校教員矢野熊太からの書翰、もう一つは明治四二年六月二四日付の個所に対応する、岡山孤児院長石井十次宛の宮崎縣知事高岡直吉からの六月二十日付の書翰である。なお、来翰ではないが本文に糊付けされていた文面がさらに二種ある。一つが明治四一年一二月一七日付、同二一日付の記事に対応する慈恵基金利子御下附願の下書きであり、もう一つが明治四一年一二月二三日付の記事に対応する名簿である。以上の本文以外の個所はそれぞれ挟み込まれていた個所に〈別紙挿入〉、糊付けされたその個所に〈別紙糊付〉と注記した。また欄外部分への記入は〈欄外記入〉と注記した。

四、この日誌から何が見えてくるかに関する私見は稿を改めたいと思うが、私がこれまで手掛けた大阪事務所、東京事務所の各日誌との相違点として際立つのは、この日誌の複数の書き手のうちの一人に石井十次本人がいる点である。その点は断言出来ても、石井以外の筆記者が誰であるかは、残念ながら本文を参照する限りでは名指しすることが出来なかった。とは言え、石井自身が筆記している個所は、その内容から識別出来るものであり、児嶋虎一郎氏が翻刻された『石井十次日誌』との比較検討を行ないたいと考えている。

五、当時の地図（大日本分縣地圖、大正五年）を見れば、宮崎縣は北東に東臼杵郡、北西に西臼杵郡、下って児湯郡、さらに東諸縣郡、西諸縣郡、北諸縣郡、宮崎郡、そして一番南に南那珂郡の八郡から構成され、当時の県庁所在地は宮崎郡宮崎町だった。茶臼原が属する児湯郡には北から美々津町、高鍋町、佐土原町があったが、それ以外の地名は村、大字、小字であった。院児の就職先（奉公先）や行楽地として言及されている地名には、高鍋では大字で上江（うわえ）、蚊口浦（かぐちうら）、小字では石井十次の生家があった馬場原（ばばのはる）、道具小路（どんこじ）など（『たかなべ地名の由来』高鍋町教育委員会、平成一八年参照）。高鍋以外では、現在は西都市に属する、当時の茶臼原孤児院の所在地たる東原（ひがしばる）、穂北（ほきた）、原無田（はるむた）、妻（つま）、杉安（すぎやす）、水流（つる）、黒生野（くろうの）、調殿（つきどの）、三財（さんざい）、都於郡（とのこおり）、現在は木城町に属する、今日の石井記念友愛社の所在地たる椎木（しいのき）、高城（たかじょう）、現在は新富町に属する畦原（あぜばる）、赤禿（あかはげ）、新田（にゅうた）、富田（とんだ）、三納代（みなしろ）、今別府（いまびゅう）、また行楽地として座論梅（ざろんばい）がある（『明治前期全国村名小字調査書』第六巻、ゆまに書房、昭和六一年参照）。なお明治四一年四月に開設されたばかりの軍馬補充部高鍋支部との間に、土地の交換問題が起こっていたが、『苦むせるいしぶみ――農業大学校用地の由来と軍馬補充部高鍋支部の概要――』（宮崎

県農業大学校、昭和六二年）によれば、同支部は川南（かわみなみ）、都農（つの）および茶臼原（ちゃうすばる）の三ヵ所に用地を取得していた。また、当時の宮崎縣の海路での随一の玄関口は東臼杵郡細島町の細島港であり、関西方面からの大型船たる琉球丸（日誌明治四二年八月六日付、また日州新聞明治四一年一月一〇日付広告欄の「大阪商船株式會社細島港荷客扱店日高本店」参照）などが同港に着岸していたが、途中の寄港地に高松（日誌明治四一年一一月一三日付）があったようなので、岡山からの一行は岡山からまず高松まで連絡船で出て、そこから琉球丸などの大型船に乗り換えていたのではないだろうか。そして細島に着いてからは、一里ほど離れた国道沿いの冨高（とみたか）、現在の日向市の中心街まで出て、そこから乗合馬車に乗って一気に南下するのが普通であったと思われる。鉄道の便はなかった。また人名で頻出する岩村眞鐵は「いわむら・まがね」である。また何回か登場する末藤新市については、東洋大学ライフデザイン学部教授菊池義昭氏がその日誌をこれまでに翻刻されている。

六、今回の翻刻に際しても、これまでと同様、花園大学文学部准教授松田隆行氏に助力を願った。深く感謝する次第である。

七、表記の方針は、次の通りである。

Ⅰ. 表記は原則として原文のままとした。また文字以外の筆の跡も翻刻に加えた。

Ⅱ. 当て字は、そのままとした。明らかな誤字・脱字と思われる箇所も原則として訂正していない。ただし、内容の理解に支障をきたすと判断した場合にのみ行間に（　）で注記したが、了解困難な場合には（ママ）とルビを振った。

Ⅲ. 訂正箇所については、抹消された箇所の文字を〔　〕で括り、（抹消）のルビを振った。

Ⅳ. 原文中にあった空欄箇所については、（空欄）とのルビを振った。

Ⅳ. 一日ごとの記述の間のスペースも原文のままにしたので、スペース無しで次の日の個所に移る場合と、スペースがあって次の日の記述が始まる場合が混じっている。ただし、原文に存在するスペースが何行にも亘る際には、一行だけに短縮している。〈別紙挿入〉、〈別紙糊付〉の注記をした場合には、その前後にスペースを添えた。

Ⅴ. 人名に関しては、一部プライバシー保護のために伏字とした。その場合には、文字分だけ□で表記した。

Ⅵ. 地名に関しては、一部プライバシー保護のために伏字とした。その場合には、文字分だけ□で表記し、行間に（地名）と注

記した。

なお、本稿は二〇〇七年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）「岡山孤児院と大阪汎愛扶植会における〈慈恵的〉保護と〈社会的〉援助―移民事業との関連で」（代表小野修三）による研究成果の一部である。記して謝意を表する。また、二〇〇七年一一月に宮崎県児湯郡木城町の石井十次資料館を今回のこの翻刻のために訪問した際にも、石井記念友愛社理事長児嶋草次郎氏より多大なる御協力を賜った。感謝申し上げます。

〈表紙〉

明治四十一年十一月一日

日誌

茶臼原

〈本文〉

明治四十一年十一月中

○一日　日曜日　晴天　朝五十二度

一、本日より茶臼原〔農林部〕（抹消）孤児院主任百田孟一君の任を解き院長滞在中自ら茶臼原孤児院を経営すことと改め會計兼養育部主任を長野米吉君に農林部兼買入部主任を堀家君に命ず

二、本日は前月よりの引続きにて塾舎敷地内の大掃除をなす日雇人清水、渡辺、西村、熱田、大橋，秋本の六人と堀家農林部主任之れを監督す

三、日曜日礼拝　午後七時半より八時まで農村の六家族と共に開らき八時より九時まで百田君の大石傳朗読あり

四、本日午前秋本長次郎君は高鍋町に岡山本部より送り來りし荷物取に往く

㈤ □□□□腹痛のため奉公先よりかへる

○二日、月、晴、朝五十二度

㈠ 岡山本部河本、古村二氏に五十人の幼児と主婦四人とフトン二十枚を携へてコイとの電報を打つ

㈡ 十月二十三日より始めたる院内外の大掃除本日にて一先づ片付けり本日も昨日の如く六人の日雇來る

㈢ 本日午後明三日天長節祝賀の御馳走として豚を奢る

㈣ 晩百田、長野、堀家の三君と明天長節祝賀会の方法につきて

爐辺会議を開らく

○三日　火　雨天　朝六十度

㈠　百田君は高鍋に長野君に代りて出張

㈡　長野、堀家二君と塾舎を巡視し、修繕につきて相談

一、現在の塾舎に東南に庇を卸し椽をつけること

二、東側の椽の北端に大小便所を建てること

三、現在の炊事場の東側の土間に板敷を張りて食堂にすること

四、食堂の南側の土間に板をはり三畳敷の主婦の部屋を造ること

五、南側の板椽の西端に玄関を造ること

以上の修繕をなすために明日堀家買入部主任は「リウギ（流木カ）」買に往くこと、二、庇造の材料買に往くこと、三、ヤネヤ大工雇入のこと　四、「フロ」桶注文のこと等を受合へり

㈢　本日は天長節にて各村に奉公せる少年朝よりニコ〳〵として集り來る□□□□□子を除くの外悉く集會せり

㈣　來客は農村六軒の全家族、岩村静、同清子、ウネハラ黒木老人なりき

㈤　午後一時より校堂に於て天長節祝賀式挙行

一、君か代

二、勅語奉読（十月十三日の勅語）

三、院長の訓話

四　祈祷

式終りて一同晝食

余興として競走―勝利を獲たるものには白木綿手拭手帖鉛筆を授く

㈥　奉公少年中近辺のものは皈り三十人程は一泊せり百田君はかれらのために赤穂義士討入の段朗読せらる

㈦　穂北村下水流川越イノ様より黒糸一かせ寄付

○四日、水、晴、曇　六十度

一、本日塾舎修繕用材料買入のため堀家君は妻町に長野君は木城製材会社に百田君は高鍋清藤眼科医院に□□□□子をつれて出張せらる

○五日　木　晴

一、午後ローランド、ウォールス二宣教師來訪
二、立野村の人々十人程孤児院見物に参らる熱田君の知人なりし故に同君院内を案内す
三、去る十月二十三日より始めたりし道路並庭内の掃除すむ　二週間を費せり　終りに学校の南側の土手の東側に全折に八間の新土手をつき今回大掃除の紀念とす
四、晩百田君の大石傳朗読會ありたり

○六日、金、曇、朝六十二度
一、午前長野百田二君は□□□□子を伴ひ高鍋にいでらる（塾舎修繕用釘買入のためと、□□子清藤医院に受診のためと牛乳とりのため）
二、日州新聞社より左の書面と共に金壱円五十銭を送付せらる
拝呈陳者過般当町大字江平町青年會員の一部東宮殿下行啓紀念日に際し餘興として虚無僧に扮し町下を流し歩き候ひしに往々報謝する向き有り積り〳〵て壱円五十銭に達せしが固より之を私に消費すべき筋の者ならねば可然處分ありたき旨申出に付貴院経営の一端にもと存じ別封をもて送金致候右御査収相奉度候也
明治四十一年十一月五日　日州新聞社
岡山孤児院茶臼原農業部御中

三、堀家秋本二人は本日山羊の柵と小屋とを造り山羊四匹を入る之れ放牧にして置けば野菜畝を勝手次第にアラスが故なり
四、堀家子は午後木城製材会社に板の注文に出かけたり
五、本日予は曇天のために終日「松薪話」をなせり

○七日　土、晴天
一、石井万吉翁岩村眞鉄氏と共に來訪茶臼原野内に用水池建築の場所見分のため
二、由つて予と長野君との四人にてマヅ岩村通よりサツマ往還に出てそれより土橋の南端にいで蔭の平より三の谷を經て本営にかへる

○八日、日、晴天
一、午前中父上、岩村兄、百田君と四人連にて薬師坂より蔭の平に往き堤池の場所を大署測量せり
二、本日より柄本大工來原午後より塾舎の修繕に着手
三、午後二時頃泥谷新柴坂前定の二氏來訪
四、藤田氏來訪大根をみやげとして與へらる
五、父上は泥谷柴坂二氏と共に四時より皈途につかる
六、晩百田、長野二君と共に農林部の計画につき相談物品販賣は断然なささることに定む

○九日、月、曇天、晴天　朝五十度

㈠　百田君は早朝妻町に修繕用材木買入のために出張

㈡　本日は桧木谷第一号塾舎ノ修繕

○十日、火、晴天　朝四十二度

一、百田君は早朝妻町に午後高鍋に材木買入のために出張

二、長野君は午前午後二回高鍋に出張せり

三、桧木谷第一号塾舎の修繕すみ松林第二塾舎の修繕に着手す

四、岡山本部より幼年組の一行明十一日出立するとの電報來る

五、北海道札幌入江君よりサクチュウヤトモダイセイカイとの電報來る

○十一日、水、曇天

一、岡山本部より左の電報來る

四ジレンラクタツタ

二、本日も塾舎の修繕

○十二日　木　晴天　正午六十度

○十三日　金　晴天　正午五十八度

一、長野君は幼年児一行出迎のため午前七時細島に向つて出発

二、高松より一行天候のため出帆延期せし旨電報ありたり

三、百田君岩村氏は夕方より高鍋に出張せらる

○十四日、土、晴天

一、百田君は一行出迎のため昨晩より高鍋滞在

㈡　午後第九時一行五十人附添五人無事着原第一殖民地の連中は右后まで出迎ひたり

○十一月十五日　日、晴天

一、古村、長の二君は荷物のことにつきて高鍋に出張

二、晩七時半より八時半まで日曜日礼拝をなす百田君は大石良雄傳朗読

○十六日　月、晴天

一、古村長の二君ハ六時過出発高鍋に出張、堀家子ハ小並に畳屋雇に出張せり

二、岡山より附添て來りし四人の主婦ハ児童のシャツ、ヅボン下の洗濯

三、古村君を案内して桧谷より蔭の平に至り「サツマ」往還を經「グミ」をちぎりてかゑる

○十七日、火、晴　四十一度　六十度

一、鈴木定通氏木下義雄、平糸重綱の二氏と共に來訪偏ク院内を参観せらる

二、午後四人の主婦と古村君は百田君の案内にて茶臼原孤児院の

範囲内を巡視せらる　□□□□□　□□□□□
三、本夕より院役者の感謝会を開らく（七時より）　□□□□□　□□□□
　　□□□□　□□□□
○十八日、水、晴、六十四度　□□□□　□□□
一、古村、長野二君は六時出発自轉車にて宮崎に往き五時半皈原　□□□□　△□□□□
二、荻原碓郎氏來訪「はみかき」粉二十袋きふせらる　〔第二組〕
三、午後七時より八時まで院役者感謝会　□□□□　□□□
　　□□□　□□□□□
○十九日、木　晴　五十度　七十八度　□□□□　□□□□□
一、古村、長野二君髙鍋に買物に　□□□□　□□□□
二、本朝より松尾組は炊事を始む　□□□　□□□□□
三、清水、永光、熱田、大橋の四人は「そば」苅に　〔第三組〕
四、午後六時頃より慰労晩さん会　□□□□　□□□□
　　□□□□　□□□□
○二十日、金、晴　□□□□□　□□□□□
一、本日より四組共に炊事をなす　□□□□　□□□□
二、午前中左の如く組別をなす　□□□□　□□□□
〔第一組〕　〔第四組〕
□□□□　□□□□　□□□□　□□□□□
□□□□□　□□□□　□□□□　□□□□□

□□□□□　□□□□□
□□□　□□□□
□□□□　□□□□
□□□□□　□□□
△□□□□□

三、宮崎より□□□□來訪
四、高鍋町（ママ）實業倶楽部代表者津野常、竹原金造二氏団体日向病気見舞として菓子持参せらる
五、午後七時より八時半まで院役者集会を開らく

○二十一日、土、晴天　五十度
一、立野村渡辺作弥氏來訪（奉公児依頼のため）金拾銭を幼年児童五六人に菓子をかへとて與へらる
二、七時より九時前まで明朝出立の阿部、山田、三宅三主婦の送別会を開らく

○二十二日、日、曇天　五十二度
一、阿部、山田、三宅三主婦午前十時出立歸途に着く
二、綾部虎太君來訪（奉公児の件につき打合のため）
三、□□□□子午前十一時過頃出立歸岡の途に着く之れ眼病のため到底農業に適せざるがためなり
四、晩日曜日礼拝を開らく
一、百田君の大石良雄傳
二、〃独吟
三、敵を愛せよ――につきて市五郎君をこちらから進んで愛し之れを感化せざる可らず

㈤　綾部君再ビ來訪一泊

○二十三日、月、曇天　四十五度
一、□□□□□、□□□□の二子は本日より綾部虎太君の紹介にて木城村に奉公せり
二、晩の院役者集会

○二十四日、火、晴天　夜少雨　四十度
一、進藤留幸君綾部虎太君と共に來訪
二、晩茶臼原村会を開らき左の件を議決す
一、小作米は普通の半額を納むること、
二、年賦借金の内金四十円は孤児院より與へ残金は自今毎月日雇賃の中より金一円宛拂込むこと、
三、肥料は現金にて買入るゝこと、

○二十五日、水　曇天　五十四度

一、午後三時頃横濱大庭夫婦來訪共に夕飯ヲ食して高鍋にかへる

二、岡山本部より五〇〇、…一四七にてとれの電報來る

○二十六日、木　晴　風激シク吹キ來ル

一、長野君は宮崎に為替受取のため

二、岩村眞鉄氏夫婦本日午後五時頃來原

三、□□□□女單身岡山より來る

四、山羊死亡

○二十七日、金、晴天　四十四度

一、本日午前児湯郡長小幡忠蔵児湯郡書記河野浦吉郡視学土井甚太郎三氏岩崎重治君の案内にて來訪郡長は金弐円を寄付せられたり

二、児湯郡東米良村八重尋常小学校長濱砂幸見氏同村書記中武長作氏來訪

三、軍馬補充部部員〔抹消〕〔某〕大長氏來訪

四、長野君本日宮崎よりかゑる

〈五〉

二十八日、晴

一、坂田正彦氏泥谷新氏の案内にて來訪

二、岡山本部に向け「□□□□□スグオクレ」

阿部姉に「□□□ツレタマイ」

〈〉との電報を打つ

高田姉に「〔空欄〕チャンツレタマイ」

二十九日　晴

一　院長夫妻其妣ノ五年回忌法要ヲ明日修センカタメ午前九時発足徒歩上江村自宅へ皈ル長野米吉随行

一　本縣師範学校附属部教師成合叶氏師範生拾名程ヲ率ヒ修学旅行ノ途次來観セラル岩村案内ス

一　今日春無田中ニ手拭壱筋ツヽ持参廻禮ス岩村

一　織田茂四郎方へ租税金〔空欄〕ノ納方依頼ノ為メ百田孟一出張ス

一　高橋竹千代氏來訪ス

三十日　晴

一　岩村眞鉄、松尾やす、家事用にて朝に高鍋へ行く眞鉄共ハ明日迄高鍋へ滞在の筈

一　塾舎中一軒の簷建付け出來そぎ葺もすみ

一　夕刻松尾やす高鍋より帰舎す

十二月一日

十二月二日

十二月三日　木、晴天　石井夫婦、長野の三人馬場原よりかゑる

十二月四日、金、晴天

本日午後七時より□□□□□、□□□□□女の結婚式挙行綾部帋太君も列席し一泊せらる

十二月五日、土、晴天　四十度（正午）七十度

一、午前九時前小の主婦出立百田君は鹿島行のため同伴賀藤まで送りたる積なり

二、岩村、綾部、石井の三人は近隣の山林、原野、田畝等を巡視せり

三、本日發行の日州新聞には左の記事あり

岡山孤児院茶臼原農林部は今般米穀等穀類の寄附を募集することを聞き高鍋町理髪業永友又次氏は本社高鍋取次所の手を経て米一俵を寄附したりと云ふ

○十二月六日、日、晴天　四十度

一　岩村綾部二君は本朝より木城村に米穀募集のために出張せらる

二、柿原正一君來訪

三、聖書賣中山、松平二氏來訪

四、下穂北村小学校教師長倉氏外二人來訪

五、下穂北村黒生野今井熊雄氏來訪十六七才の女子一人

二十才以下の男子一人雇入れの申込あり

六、午後六時岡山より阿部高田二主婦児供四人着原

○十二月九日

倉庫西部の切下工事に着手す

○十二月十日

一、□□女〔上穂（抹消）北村字杉安百拾番地鹿島徳蔵方〕本夕より渡辺筆吉方に奉公〔鹿島（抹消）氏は金十銭を寄付せらる〕

二、百田君鹿児島より歸原

○十二月十一日　曇天、雨天、朝五十度

一、午後六時頃岡山より□□□□女、□□□□□君と共に來原

二、村会を開らき小作米につきて相談

三、金一円永友又次君より寄付

○十二月十二日、雨天　朝六十二度

一、午前綾部末吉君高鍋町に買物に行くにつき牛乳取（郵書も）を委托す

二、午後三時より五時まで村会を開らき昨年と本年の小作米の勘定をすます

三、晩□□□□子の独立問題につきて相談会を開らきイヨ〳〵本月より月給七円を給して独立することに定む

本縣師範学校附属部教師成合叶氏師範生拾名程ヲ率ヒ修

○十二月十三日、晴天、朝五十度　正午七十二度

一、下穂北村米良周三、長友元造、米良芳平、海老原儀一郎の四氏奉公児雇入のために來訪
二、七時より八時まで日曜日集会を開らく
○十二月十四日、曇天、　朝五十度
一、午前八時長野君は岡山本部に向つて出發
二、百田君赤はげ柿原君を訪ひ山羊譲渡の談判をなすまた鉄砲も二挺共に柿原君買いくるゝとのことに定る
三、本日午後泥谷新氏來訪寄付金品の募集を委托す
四、晩新築塾舎の図案研究会を開らく
○十二月十五日、火、晴天
一、アカハゲ村の農夫四人馬見に來る
二、原無田の金丸國三氏來訪籾賣につきて
○十二月十六日、水、晴天　　四十二度（正午）六十六度
一、松林学校教師として進藤留幸氏來原
二、午後一時主婦及び全生徒を学校に集め明日より開校の事につきて一場の話をなせりあとにて主婦四人は校舎の板場並机の掃除をせらる
三、是迄の「カマと」を西方の松林中に移轉せり之れにつきて□□□君は右足を負傷せり
四、岩村、綾部二兄木城村より皈原
○十二月十七日、木、雨天　五十二度
一、本日より小学校開校
二、本日郡長の内命により左の如く茶臼原孤児院の概況を調べ岩崎君の手許まで差出せり

茶臼原孤児院

一、茶臼原原野買入年月
明治二十年十二月二十四日以來数回に買入
一、所有地反別
○原野　五十町
○山林　十町（松十五万杉桧五万本）
○畑　十町
○田　四丁
計七十四町歩
一、孤児移住の年月及人員
第一回　明治廿七年四月二十日より年末まで移住したるもの六十名
・三十七年十月十日（ママ）　三人
・三十八年十二月二日（ママ）　十三人
第二回　〃三十年九月二十二日　参拾名
第三回　〃三十九年七月二十八日　五拾名

第四回　〃四十一年十月十四日　拾名
第五回　〃四十一年十一月十四日　五拾四名
〃　十二月二十三日　四十一名
計　〈弐百四名〉

一、現在人員及世話人數
生徒　五拾弐人
世話人　八人（庶務一、会計一、教師一、主婦四、農林部一）

一、現今経常費
一ヶ月金弐百円
内譯　百四円　生徒五十二人の衣食費
拾五円六十銭　教育費
七拾五円　職員八人手当金
五円四拾銭

一、奉公人數
計四拾八名
内譯　髙鍋町　七名　上江村　一名
木城村　六名　川南村　二名
冨田村　三人　新田村　四人
下穂北村　八人　上穂北村　十七人

一、殖民地戸數人員
七戸　七夫婦と其児童九人

一、將來の企画
現今建物拾弐棟を有し孤児五十二人ヲ教養セリト雖將來ハ尚塾舎弐拾棟校舎一棟ヲ増築シ岡山本部より生徒三百ヲ移シテ小学教育ヲ施シ尋常科卒業の上ハ從前の通徴兵適齢マデ農業見習のため児湯郡各村の農家に奉公セシメ一人前の百姓となりたる上ハ可成本院出身の女子と結婚せしめ本人の希望に從ひ本院殖民地或ハ本縣下ハ勿論遠く清韓の地ニモ農業的殖民をなさしむるの企望なり

右之通に候也
明治四十一年十二月十七日　茶臼原孤児院

一、泥谷新氏は左の人々よりの寄付になれる「ライオン」慈善券を持参せらる
ライオン空袋　十七　林権太郎

ライオン慈善袋　五十六　高鍋学校　足利峯義
仁丹　十四　生徒
〃　十三　田村　寛

○十二月十八日、金、晴天
一、松尾やす、□□□□母子三人は馬場原に行く
二、金壱円也　大阪市東区北御童内松家方佐藤じん子（主婦阿部き未子の友人）より「クリスマス」のため恵贈せらる
三、倉庫西部の家地切下工事一軒分出來

〈欄外記入〉
四、宮崎郡田野村軍友会長倉恒右ヱ門氏ヨリ照会状來る

○十二月十九日、土、晴天　四十度
一、茶臼原第五ライオン館の屋地「コシラヱ」に着手す
二、十二月十二日附にて宮崎縣田野村軍友会長倉恒右ヱ門氏より旧正月元旦を入れ一週間本院活動写眞隊派遣の儀申込まる
三、進藤教師夕方より都農町に往かる

○十二月二十日、日、晴天　三十四度　五十度
一、本朝より井戸掘に着手す
二、□□□□□君本朝出立韓国に向はる
三、晩日曜日集会を開らく

○十二月二十一日、月、晴天
一、岩村氏は郡役所に慈恵資金利子下附願の件につき出頭せんがために高鍋に
二、永友賢偉氏來訪
三、夕方岡山より西内天行君來訪

○十二月二十二日、火、曇雨　五十度
一、高鍋町立光商店より「げた」二十足寄付

〈別紙挿入〉
つら〳〵考へ見るにあはれ
痛ましき孤児が
あたゝかき慈善家の
胸に抱かれて所寒之空
に親を欲りもせず深
き〳〵冷やかなる夢
路にたどり入る時痛
ましくも可憐なる彼
等が生涯と過去

を追想しては如何に
我れ栄華の花に遊
べばとて涙の多き彼
等が現代を看過
するにしのびず候
我れ薄志僅に下
駄弐十足を寄送す
請ふ蔑視冷笑
されて御受納被下候
はば幸甚の到りに候ふ

日向國高鍋松原町
俞　立光履物店〈印〉

岡山孤児院
茶臼原農林部御中

二、金六百円岡山本部より送金領収せり
三、午後四時より本雨になれり
四、午後八時より九時まで□□□□と□□□□女の結婚式を事務所にて挙行せり

〈別紙糊付〉

慈恵基金利子御下附願

本院明治二十七年四月以來今日マテ十四年九ケ(ママ)間兒湯郡上穂北村字東原ニ支部ヲ設ケ孤兒ヲ移シ教育致居候就テハ特別ノ御詮義ヲ以テ慈恵基金利子御下附御補助被成下度別紙茶臼原孤兒院現況相添此段奉願候也

明治四十一年十二月廿一日　財團法人岡山孤兒院理事石井十次　理事印

院印

宮崎縣知事高岡直吉殿

岡山孤兒院支部　茶臼原孤児院現況

当支部ハ岡山孤兒院設立ノ当年即明治二十年十二月同志ト共ニ院兒將來ノ移住地トナスノ目的ニテ児湯郡上穂北村字東原ノ地ヲ相シ其買入ニ着手シタルヲ始トシ爾来新規擴張經営シテ現況ニ至レリ其枢要ヲ區分列挙スレハ左ノ如シ

一　所有地　大凡七十四町歩
　内　原野凡五十町歩　山林凡十町歩　畑凡九十町歩　田凡四町歩

一　孤兒移住數　百七十四名
　第壱回　明治廿七年四月二十日参拾名及ヒ同年中前後三

回ニテ合計六拾名ヲ移シテ教養ス

第貳回　同三十九年六月五拾名

第参回　同四十一年十月十四日拾名及同十二月十四日五拾四名（尚今日移住ノ途ニ在ルモノ四十一名）

現在生徒　五十二名

一　農業練習生　四十八名

尋常科卒業後農業練習ノタメ農家ニ奉公セシムルモノニシテ其内譯ハ左ノ如シ

高鍋町七名　上江村一名　木城村六名　川南村二名　富田村三名　新田村四名　上穂北村八名　上穂北村拾七名

一　植民地戸數人員　七戸　貳拾参名

前年移住シタルモノニシテ既ニ成年ニ達シ目下本院監督ノ下ニ獨立シテ部内ニ一戸ヲ構ヘタルモノ

七夫婦　拾四人　其小兒　九人

其他曾テ当院ノ教養ヲ經タルモノ今ヤ當郡内及宮嵜郡西臼杵郡其他ニ轉住シテ各種ノ業ニ從事セリ

一　世話人　八名

内　庶務一、会計一、教師一、農林部員一、主婦四、

一　經常費　一ヶ月金貳百円

内譯　金百四円　生徒五十二名ノ衣食料

〃拾五円六拾銭　教育費

〃七拾五円　職員八人手當

〃五円四拾銭　雑費

一　建築物　拾貳棟

塾舎五棟、校舎壱棟、事務所壱棟、院舎貳棟、倉庫壱棟、厩舎壱棟、肥料舎壱棟

一　家畜數　四頭

内牝馬三頭　仔馬壱頭

右現今前文掲クル所ノ生徒五十二名ヲ教養セリト雖トモ將來尚塾舎貳拾棟校舎壱棟ヲ増築シ岡山ヨリ生徒三百ヲ移シテ小学教育ヲ施シ尋常科卒業ノ上ハ從前ノ通リ徴兵適令マテハ農業練習ノタメ本郡各村ノ農業家ニ奉公セシメ一個ノ百姓トナリタル上ハ成ルベク本院出身ノ女子ト結婚セシメ本人ノ希望ニ從ヒ本院植民地或ハ勿論遠ク清韓ノ地ニモ農業的移住ヲナサシムルノ企画ナリ

○提出當日児湯郡会ハ郡役所樓上ニ於テ茶臼原孤兒院補助ノコトヲ縣参事会ニ出願スルコトヲ決議シタリ

五、本日岩村兄は郡役所に出頭し慈惠基金利子下附願を宮崎縣知事に出願し児湯郡会は満場一致をもて茶臼原孤児院補助の件を縣廳に出願すことを議決せり

○十二月二十三日、水、晴、四十六度

一、午後六時頃岡山より赤木長野小野の三氏児童四十一人を伴ふて來原途中美々津町にて河野はる子高鍋町にて木元善四郎氏は一行に菓子を恵まる

〈別紙糊付〉

元阿部組　□□□□　〃□□□□　〃□□□□（□□）　〃□□
□□□　〃□□□□　〃□□□□（□□）　〃□□□□　〃□□
□□□　〃□□□□□（□□）　〃□□〃□□□□　〃□□□
□□（□□）〃□□□□　〃□□□□　〃□□□（□□）　〃□
□□□　〃□□□□□□□　〃□□□□（□□）　〃□□□□
〃　□□□□〃□□□□（□□）　〃□□□□□　〃□□□□
〃□□□□□（□□）　〃□□□□□　〃□□□□□　〃〈□□
□□〉（□□）□□□□
現小野組　□□□□他組ヨリ選ビシ分　〃□□□（□□）△　〃
□□□□（□□）△　□□□□　〃□□□（□□）　〃□□□□
□□（□□）〃□□□□□　〃□□□□（□□）　〃□□□□□
〃□□□□　〃□□□□（□□）　〃□□□□　〃□□□（□
□）以上四十名　外□□□女

二、午後十時頃末藤新市君來原

○十二月二十四日、木、晴天　四十六度

午後六時頃宮井事務員來原

○十二月二十五日、金、晴天　四十六度

一、山密柑二百六十　祝クリスマスとして木城村字椎木税田元次郎氏より寄附せらる

二、午後二時より三時まで学校に於て「クリスマス」祝会を開らく

○十二月二十六日　土、曇天

一、上穂北村壹岐嘉三郎氏來訪奉公少年の申込みをなし金十銭を寄付せらる

二、西内、宮井二君出立皈途につかる

三、晩参謀会議を開らきいよ〳〵昨日より末藤君主任となり穂北運動に着手することに決す

○十二月二十七日、日、

本日左の諸氏は奉公児雇のため來訪

下水流　大工　新平
四日市　米良周三外二人
杉安村　黒木小次郎
本部彦太郎

黒木傳七

新田村一町田字藤山　矢野覚太

二、晩集会末藤君の話百田君の大石傳―予は感冒のために列席すること能はざりき

岡山孤児院支部茶臼原孤児院クリスマス

一、明治四十一年十二月二拾五日午後一時三十分開會

式順左の如し

1. 着席
2. 敬禮
3. 讃美歌　四百二十三番
4. 院長の祝辞及び祈祷
5. 児童の祝辞演説并ニ聖書暗誦
6. 祝祷（西内牧師）
7. 讃美歌　五十九番
8. 敬禮

二、余興

1. 金鵄勲章のはなしと唱歌　男児五人
2. 無邪気なさんびか、　女児一人
3. お伽はなし　熊の裁判　男児一人
4. 海の歌　男児十五人
5. 手品十數種　出身者　加藤奇術博士
6. 滑稽談　末藤事務員
7. 蓄音機

三、仝日午後三時二十分閉会　参會者左の如し

院役者及び家族		十六人
在院児童		九十四人
殖民村家族	大人	十四人
	小児	九人
農業見習生		四十八人
來賓		四十五人
合計		二百二十六人

四、概況、本年は石井院長の來院せらるゝあり加ふるに朝來の好天象、うれしげに奉公先より來れる小供等満面に笑をたゝへつゝ「おとうさん　これハ一つですけれど」と差出す大みかん、あるは鶏の卵、実によろこびのあふれなりける　むすこ抱へた殖民地の若夫婦、岡山仕立の新移住の健児今日を晴れと喜び勇めり、事務所の前庭に戸板しきて並べられたる赤飯に鯨の大御馳走　ヤルワヤルヤ　三ばい五はい乃至八九はい、

満腹したるからだは今日の式場たる小学校教室にと運ばれぬ
式は午後一時半を以て開き三時過に終る
余興中腹つゞみかゝへしめたるは加藤博士の奇術なりける
式終りて近きものは帰り遠きものは一泊して翌日帰村せり、

○十二月二十八日

百田本日出立皈郷の途に着かる
塚本宮崎郡長外全郡教師四五十名男鈴登山之途路來院参観、全郡教育会として金四円寄附せらる

○十二月二十九日

一、岩村、末藤の二君は高鍋に出張
二、晩奉公人の割付につきて相談会を開らく

○十二月三十日、

一、午前九時左記の児童をして夫々監督者を附して田舎の農家に奉公せしむ

西村君引率
□□□、□□□□□□□、□□□□

綾部君引率
□□□□、□□□、□□□□、□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□□□□、□□□

大橋君引率
□□□□、□□□□□□□、□□□□

渡辺君引率
□□□□、□□□□、□□□□、□□□□□

熱田君引率
□□□□、□□□□、□□□□、□□□□

殖民村熱田君方
□□□

新田村字赤ハゲ柿原君方
□□□□□、□□□

以上　男二十六名
　　　女　一名
　　　計二十七名

出立前院長よりの訓示

㈠　うれしき時も苦しき時も神に感謝し且祈れよ
㈡　二宮尊徳先生の「豆は食へども豆といふ字は食はず」との話を忘るゝなかれ、
㈢　わたしや岡山孤児院そだちどんな苦労もいとやせぬ」この歌を実行せよ、

㈣「立つより返事」といふことを念頭に置け、

二、末藤、岩村二君は児湯郡長に面会せんため本部役所へ出頭、穂北運動之添書を請ふ

三、夜、長野、堀家、末藤等相會し歳末参謀會議を開く

十二月三十一日

一、末藤君賛助金集金のため津満に行かる、

二、新藤赤木両教師は尋三以上の児童を引率し旅行かた〳〵学用品購入として高鍋町に赴く、

三、午後八時より職員一同事務所に相會し歳末〈新〉感謝會を開く、九時四十五分閉會、

明治四十二年一月一日

一、午前七時日の出と仝時に四方拝祝式をあぐ　式場は元會堂の跡、

二、田中唯輔氏來訪　金壱円寄附せらる、

三、長友源平氏仝濱市氏來訪金拾銭寄附せらる

四、午後一時より児童の体格検査を行ふ、

五、夜櫨辺にありて新年余興會を開く、

六、末藤君は寄附金品募集のため殖民村を訪はる

〈欄外記入〉

宮崎町中村町下穂北村四日市

一月二日

一、午前七時温度二十五度

二、末藤君は寄附金品募集のため上穂北村字原無田に赴かる

三、夜八時より院役者新年所感會を開く

一月三日

一、末藤君綾部君は寄附金品募集のため原無田に赴かる

二、左記の児童を農業見習に出す

□□□□

□□□□□

三、午後八時より日曜祈禱會を開く、席上赤木教師の二宮先生生ひ立ちの話ありたり、

一月四日

一、午前八時より児童及び院役者の會集を行ふ、以後毎朝之礼を行ふ（学校教室に於て）

二、末藤綾部二君は寄附金品募集のため出張、

三、岩村眞鉄君は土地借入の用務を帯びて、午後五時朝鮮に向て出発せらる

四、小学校授業開始

毎日六時間、二部教授

〈欄外記入〉

綾部君木城村　末藤君原無田

一月五日

一、農林部主任堀家利吉君夫婦明治四十二年一月ヨリ独立するにつき左の條項を契約す

一、独立するにつき現住の家屋、家具及馬一頭并に茶を與ふること、

一、現在の杉桧苗及び肥料一切を与ふる事

一、これまで孤児院にて農作せし水田、蔬菜畑を小作せしむる事

一、農具一揃を与ふる事

明治四十二年一月五日

岡山孤児院理事石井十次　印

堀家利吉君

一、末藤君ハ金穀寄附募集のため原無田に出張せらる

一月六日

一、末藤君、金穀寄附募集のため赤禿に出張す

一、午後一時より石井院長赤木教師茶臼原境界線を巡視す、二時間を費せり

一、夜殖民地青年を招きてばんさんを餐し種々協議する処ありたり、

一月七日

一、午後一時より石井院長夫婦、長野、赤木、夫婦同行にて將來の塾舎敷地を撰定すべく領内を巡視す、

一、□□□□□奉公先ヨリ帰りシニヨリ永光君宅に托す而して永光君宅に居りし□□を□□□□□の後にやる

一月八日

一、学校の課業を休み新藤赤木両教師は左記学校を視察す

木城尋常高等小学校

上江尋常高等小学校

高鍋尋常高等小学校

一、綾部君來泊（木城村ヨリ）

一、末藤事務員は寄附金穀募集のため妻町方面に出張

一、大坂なる北村健〔抹消〕〔太〕次郎君保養のため來院

一、左記児童を奉公に出す

□□□□（尋三）　下穂北村字岡留村原田松袈裟氏方

□□□（尋一）　黒生村　堀江米蔵氏方

一月九日

一、降雨ありてしかも空気寒し

一月十日

一、左記児童を里預となす

□□□□□　木城村字岩浦村　岩切滋太郎氏方

一、東臼杵郡南口村字中渡川医王山薬師院長　池田慈月氏來訪

一、午後七時岡山よりの一行來着氏名左の如し

小野田鎮、大工藤原石吉外一人　□□□□□

一、例により朝日曜祈祷會を開く、集まるもの

院長御夫婦、学校教師、

主婦、殖民村家族

末藤、小野田両事務員、北村健次郎君

一月十一日

一、高橋竹千代氏來泊

一、オルガン（学校用）來着

一月十二日

一、朝集会　高橋君の講義は桃太郎なれば桃太郎になれとの感話あり

二、午前十一時頃小の組失火幸にして大工連のかけつけたると植民地の連中傍らにて井戸掘をなせしため畳、建具、炊事道具、夜具、衣ルイ等一品も残らず焼失をまぬかれたりき

三、午後末藤君は穂北村に賛助金集金に出張夜に入りて皈原せらる

一月十三日、水、雨天

一、午前八時赤木君歸途につく

二、朝集会　本朝より北村君「オルガン」をひく　予は主イエスが「オルガン」と北村君を與へわれらを愛し玉ふことゝ「オルガン」を大切にすべきことゝを語る

三、本月中の寄附金穀芳名を「日州」に掲載することを岩崎君に依頼す而して左の如く附言をなすことゝせり

一、本院は岡山孤児院の支部にして児湯郡上穂北村東原にあり

一、現在生徒百二十七人内七十七人は農業見習のため附近の農家に奉公し六十人は院内設置の小学校に於て教育せり

一、尚十二才以下の両親なき孤児はいつでも入院を許るす

一、現今一ヶ月の經費二百四十円を要す縣下の慈善家諸君應分の御同情あらんことを乞ふ

四、午前十一時井戸より水湧き出でたり

（所感）昨日の火事を之れに消したるの感ありて嬉度感謝に

堪へず
五、午後佐久間武男君岡山より來原
六、水出の祝として井戸掘連に夕飯を呈す
七、十時まで佐久間、小の田、長の、末藤の四氏と外部運動の参謀会議を開らく
八、大分内林君より特別配達の電報來る

一月十四日　木　晴

一、本日は朝集会も学校も休みて新藤君北村君を始め生徒全体井戸掘の手傳をなす
二、末藤君本日より宮嵜に賛助金集金のため出張
三、本日にて井戸掘成功

一月十五日、金、晴天　三十度

一、朝集会に於て井戸掘手傳の褒美として紀念のため生徒四十四人に「ナイフ」を與ゆ
二、宮崎縣警察部警部長山友助氏巡査教習所助教島田親廣氏巡査教習所生徒十八人を伴ひ妻町警察署長乙森仲介君の案内にて來訪金壱円寄付
三、午後四時岡山より河本茂四郎氏□□□子を伴ひ來原
四、午後十二時まで河本、小の田、佐久間、長野の四君ハ談話
五、本日夕方たるや佐田實氏來原

一月十六日、土、晴天

一、朝集会後河本、佐久間、長のの三君を案内して事務以西の孤児院所有の松林を巡回せり
二、十一時より午後三時まで河本、佐久間、の二氏と共に木城村永友新蔵氏の案内にて坪池字の原野を巡視し皈途永光の水田を巡視す
三、午後小の田、佐久間君と相談会を開らき
一、四十二年式は洗足主義にてやること
二、小の田君は九州軍に投じて「ヤメン（矢面カ）」になつてやることに定めらる
四、本日夕方鈴木大工來原
五、綾部乕太君來原一泊
六、本日の「日州新聞」に茶臼原孤児院の寄付金品廣告いづ

一月十七日、日、曇雨

一、未明佐久間、小の田、二君出立綾部君は木城にかゑる
二、本晩日曜禮拝会を開らく
三、末藤君宮崎より皈原

一月十八日、月、晴天

一、午後河本兄と第二植民地の周囲を巡視す
二、午後三時過より夕方まで綾部、岩月、福永の三氏の案内にて

木城村の内 桃木窪上中原の地を巡視す
三、本日植民地の連中は「ヱミール」谷に家地コシラヱ午後小学校生徒は白赤の旗と帽とを装ふて地ナラシの手傳

一月十九日、火、大雨天　朝五十八度

一、本朝〔集会（抹消）〕は長野に代りて末藤君高鍋に出張
二、木城村福永吉兵ヱ氏より切替畑六反三畝歩を買収す代金六十三円也

一月二十日　水　曇天　朝五十度

一、朝集会に於て院長は犬にまける勿れとて朝夕のアイサツを忘れざる様にすゝむ
二、岡山□□□□君に左の電報を打つ

ビョウキヨクバオイデ

三、高鍋町泉夫人來訪〔子供貰ひのため（抹消）〕

一月二十一日

一、夜半十二時より主婦四人は植民地の青年と共に正午十二時まで餅搗
二、本日より□□□□（十才）は末藤君に伴はれ高鍋町高月泉氏方に養子として往く
三、岩村静子は馬場原母上病氣なりとの使者と共に早朝ゆかれたり
四、岩月傳蔵氏より畝九反弐拾歩を買収せり代金百拾円也
五、柄本、鈴木、佐田の三大工も旧年末にて皈宅せり
六、晩河本、末藤、長野の三君と共に談話

一月二十二日　金、旧一月元日　正午五十四度

一、朝集会
二、大掃除を学校にて引受けてやること、せり
三、河本氏午前十時過出立皈途につかる
四、上穂北村島の内町黒木貞助氏來訪共に昼飯を食し種々なる問題につきて談話をなし院内を参観し金壱円をきふしてかへらる
五、午後妻町河野藤一氏店員三人と共に來訪徧く院内を参観し金五円をきふせらる

一月二十三日　土、晴天　七時半二十六度

一、午後柄本大工來原
二、昨日より今日にかけて旧正月礼にかゑり來れる少年五十八人
三、來る二十六日知事堤農工銀行頭取の一行來訪せらる旨赤禿柿原正一君より通知來る
四、学校の塗板大二枚小三枚出來上りて到着せり

一月二十四日、日、雨天

本晩日曜日の集会に於て北村君に「ヱミール」の講話を委頼す（第一回）

一月二十五日、月、雨天

一、井桶入れを始む

二、午前十一時頃高鍋より岩崎重治君來訪

一、黒木清五郎氏の田地買収の件

二、軍馬補充部に土地交換の件の問合を委頼す

三、西内君を高鍋教会牧師に委頼することを相談し同氏ニ打電することに定む

三、本日西村亀吉君に青馬を譲る代金四拾五円の約束にして旧本年末までに拂込みの筈なり

一月二十六日　火、晴天

一、末藤君本日より妻町の寄付金募集に出張せらる

二、綾部君午後來原一泊

三、阿部組□□子無断出院高鍋に往き一泊してかゑる

一月二十七日　水、晴天　朝七時三十度

一、屋根の大工西尾房吉氏來訪

二、午後四時藤井君來原

一月二十八日　木　半日曇午後晴る

一、午前午後藤井兄を案内して茶臼原孤児院の外界線を巡視せり

二、午後九時まで一同と茶臼原温泉に浴す

一月二十九日　金　晴天　朝七時三十四度

一、午前中穂北村助役壱岐亀三郎氏來訪軍馬補充部より土地交換問題につきて相談ありとの件につきて話ありき

二、晩藤井兄の旅順開城始末談あり

一月三十日　土、晴天

一、藤井君皈途につかる

二、学校は新藤北村二教師と共に坐論梅見物に三主婦は高鍋に買物に往かる

一月三十一日、日、曇雨　朝三十六度

一、午前十一時高鍋町長久保昌業同農會長惠利朝吉上江村村長稲倉恆純君外六人來訪

二、午後岩嵜泥谷二氏來訪

三、晩日曜日集會（ヱミール第二回）

二月中日誌

○一日、月、雨天

一、本日より泥谷新氏毎日高鍋より郵書と牛乳を持参せらるゝことゝなる

二、末藤君妻町より皈原

三、長野君も予も一月中の新報原稿にて多忙なりき

四、間瀬田富三郎君來訪

○二日　火　曇

一、末藤君妻町へ出張

二、院長夫婦岩村静子氏等は赤禿柿原氏經営の殖民地を視察の為出張五時半帰原

三、長野に代り新藤教師二度高鍋町に出張　新報原稿郵送及筆買入の為め

四、小野組の疊替えを成す

五、岡山本部より出身者□□□□□永眠すとの報に接す

六、午前十時半より児童の体格検査を行ふ

七、新田村字末永末住丑松氏女子雇の為め來訪

八、森原貞氏院長見舞の為來訪

三日　水　朝雨天午后晴

一、西村亀吉君を頼み□□□□を穂北村に奉公せしむ

二、川南村多賀尋常小学校教員矢野熊太氏より餅七貫七百五十目寄附熱田君貰に行

〈別紙糊付〉

拝啓厳寒の候にむかひ
ましたが皆様御障りも
あらせられませんか偖甚
失禮なる申上げ様ですれ
どもこの旧の正月には小学
校の児童が其の祝ひのしるし
として一寸鏡餅見たよ
うなのを一重ねづゝ持
参しますのでそれを辞
退するのも何となく本
意でない様におもはれ
處よりして先づはうけ
てゐますので只今其の
餅が集って居ますもし
貴院におかせられて可
愛なる御子供様方への
御目覚ましにても御つかひ
下さるゝ事になりますなら
ば少しではありますけれ
ども差上げたいと思って居ます
しかしながらもしこの旧にも
御搗きになりましてはや
御子供様方へも御差上

げになりました事であ
りますならばいかゞであら
うかと存じて居ます
実はこなたよりわざ〳〵
持参致し度いものと存じて
居ますけれどもいろ〳〵の
事情の為に甚遺憾で
すけれども其の運びに至らん
ので困って居ますそれで甚
勝手がましい事とは萬々
承知して居ますなれども
若し貴院に於て御都合
がつかせられますならば
成るだけ餅が固くならん
うちがよろしいと思って居ま
すからこの書状がこの日曜
日か又は月曜日頃かに届きまし
たらば日曜日の午後か又は
月曜日頃かに貴院より
十四五歳にならるゝ少年方
を両三名程御遣はし
下さるゝことは御叶ヒ申すまい
かもし御遣はし下さるゝよう
になりますならばどうか
大風呂敷き見た様なもの
を御持参させ下さるよう
に御願ひ申上げます
只今貴院内に御子供方
か何人程御収容になってお
いでになるかはよくは存じて居
ませんけれども差上げたい
と思て居ます餅の数は
約六七十個位はございま
す是か小形のではありませ
んので少し大き方なのです
右の通り御承知下さいまして
もし御入用でもございます
ならばとおもってこゝに甚失
禮をもかへり見ず一應
御伺ひ申上げます不一

一月廿九日　矢野熊太
茶臼原孤児院御中
追白
私の在職学校は御承知かは
存じませんが木城よりはわづ
かに半里余位の處で貴
院よりは二里位もございま
せうか

三、宮崎町植村写真師十一時半頃來原ニ付事務所、塾舎、孝校、茶臼原全影、茶臼塚ニ児童と主婦を共に写し第一殖民地第二殖民地正門を写して直ちに皈宮せらる
四、午后七時より一月八日コろ來院せられ孝校の為働カれし北村君の送別会を開らく
五、宮崎堤氏よりアスチゞと八ジニタツとの電報來る
六、午后十時頃末藤君妻町より皈原

四日　木　晴天
一、北村君皈途につかる
二、妻町警察署長乙森仲介氏知事出迎の為來訪
三、宮崎縣事務官亥角仲蔵氏、高鍋警察署長若松氏外一人來訪親しく院内を参観せらる
四、午后宮崎縣知事髙岡直吉氏農工銀行頭取堤長発氏宮崎縣技手石川若蔵氏を同行せられ來訪院長孝校塾舎第一殖民地を案内す知事より金五円堤氏より金二円寄附せらる
五、岩村眞鐵君朝鮮より皈原

五日　金　晴天
一、末藤君妻町へ出張
二、新田村字末永阿萬文弥阿萬亀太郎家光為蔵の三氏來訪奉公生雇入の希望
三、佐土原町矢野岩蔵相馬生登子氏來訪

六日　土　晴天
一、長野石灰板石買入の為髙鍋町に出張
二、石井院長夫婦馬場原自宅へ帰らる
三、岡山本部より一覧表及自轉車ランプ送り來やる

七日　日　晴天
一　綾部寅太君より木城村にて募集せし籾蕎麦等を荷馬車二台にて送り附けらる叺数六俵外袋入二ツ
二　岩村眞鐵君午前十一時頃より髙鍋町へ出張
三　午后五時半頃炭谷姉百田君と同行にて來原
四　院長夫妻、岩村君炭谷姉共に馬車にて皈原

五　晩集会を開らく炭谷姉の感話、岩村君の朝鮮視察話
六　大阪北村氏より生徒へ栗をこし六十八個寄附せらる

八日、月、晴天

一　朝集会後院長、岩村、百田、長野、第二殖民地を巡視す
二　井桶入今日ニテ結了す
三　午后綾部寅太君木城村より皈原
四　植村写真館より先日写せし写眞送り來る松林李校の写眞新報へ入れる為め大阪活版部へ送附す
五　□□□□殖民地渡辺筆次君方へ奉公せし居しが本日より
六　岡山本部より先月不足金百四円七十八銭送り來る
七　大石

九日　火　雨天

一　井桶入結了祝の為殖民地連中及事務所員に中飯を出す

十日　水　晴天

一　院長、岩村土地交換の件ニ付早朝より高鍋町に出張五時頃皈原
二　大分町本院地方委員内林棟作氏來原
三　高鍋町坂田氏鈴木定直氏のより下女雇入方を依頼せられしニ付其の相談の為來原

十一日　木　晴天

一　小李校にて午前九時より紀元節祝式を行ふ終りて大阪北村氏のより寄贈せられし栗をこしを子供へ分配す
二　長野に代りて新藤君高鍋町に出張
三　妻町末藤君より写眞画帳五十冊使を以て請求せらる由て五十冊渡す
四　綾部君木城村募集結了決算の為皈原

十二日　金　晴天

一　大阪北村健次郎君より金五円寄贈せらる
二　□□□□上穂北立野榊原倉吉方へ奉公す

十三日　土　晴天

一　炭谷小梅姉、石井夫人、高鍋町ニ出張
二　末藤君妻町より皈原

十四日　日　晴天

一　内林棟作氏皈途につかる
一　細島児玉礼三氏の尽力により捕鯨会社より鯨肉三貫五百メ寄贈せらる
三　小野、高田、阿部三主婦、高鍋町婦人会にて炭谷婦講話ある為同町へ出張
四　塾舎用傘十九本買入ル

五　綾部君木城より皈原
六　日曜集会七時半より開らく炭谷氏の感話　百田君のエミイルの講義
七　□□□□□奉公先より逃走故に髙田組の□□□□を代りにやる

十五日　月　晴天

一　院長綾部君を伴ひて木城村に礼廻に行カる
二　椎木の古家今日にて運送結了長友新造氏へ拾弐円七十銭支払ふ
三　高橋竹千代君來原

十六日　火　晴天

一　岩村君土地交換結約書提出の為上穂北役場へ出張午后四時頃皈原
二　炭谷姉妻町有志者之招きに由り午后より出張せらる
三　□□□上穂北村界村金丸宗太郎方へ奉公せり金丸氏より三銭五厘寄附
四　上江村鬼久保倉掛榮太甲斐甚四郎両氏子供雇入の為め來原せらる

十七日　水　晴天

一　院長長野を伴ひ妻町有志者へ御礼廻りの為出張午后五時半頃皈原
二　新しき井の縄本日出來直ちに使用す
三　昨日奉公せし□□□泣くとて送り返さる
四　各塾舎に薪小屋を造る事に定り取扱組にて受持ちて建てる事にせり一間に一間半

十八日　木　晴天

一　院長夫妻馬場原自宅に皈らる但し上江村寄附募集相談の為
二　長野板石買入ノ為髙鍋町に出張す
三　妻町河野ふで及門野まさ子來訪金壱円並に古筆古墨を寄附せらる
四　妻町時計商五島久重氏参観子供一二人引受タシト申込あり
四　今晩は百田氏大石傳を講談せらる
五　午后九時頃大雨となる
六　髙田主婦□□□を元奉公せし回井村へ連れ行カる

十九日　金　半雨半晴

一　堀家君髙鍋町に出張せらるに付長の代り院長宅へ印刷物を事付る
二　黒木榮太郎池田寅吉來院□□□□雇入ノコトを依頼せらる
三　□□□□水屋原黒木義一方へ轉奉公一名御仕着

二十日　土　晴天

一　蚊口鹿造來り味噌賣込願ひ及岡山より荷物あらば積みたし旧二月下旬に仕上がり舟を出すとのコト

二十一日　日　晴

一　午前新藤君自轉車にて高鍋町に出張

二　妻末藤君より明日有志者の為に午后五時より晩餐会を致と申來り直ちに長野を馬場原院長宅へ通知の為出張せしむ

三　宮崎警察詰清水丑太郎氏参観、冨田村字下城元阿萬喜左エ門氏子供一人雇入の希望

二十二日　月　晴

一　朝集会終りて百田長野冨田君を伴ひ院内原野を巡視す

二　院長妻町へ行かるゝ途中立寄られ岩村君を伴ひ同町へ向はる

三　専賣局穂北出張所長中野音次郎児湯郡農会枝手徳永岩助氏煙草植付の件に付て來訪

二十三日　火　曇天

一　長野君西内君迎ひの為め高鍋町に出張

二　下穂北村右松押川真龍氏來訪金壱円寄附せらる

三　院長夫妻岩村末藤君等午后四時頃妻より皈原末藤君再び妻町へ出張

四　午后五時半頃西内君來原

五　大原氏よりコンヤタツリクロユク二六ゴロツクとの電報來る

六　冨田村下日置野中日高新平氏子守雇入れ為來訪

二十四日　水　雨天

一　午后一時より本部にて主婦會をなす

二　午后四時より殖民者一同の催しにて院長及院役者を招待して親睦会を開らく會場は事務所

二十五日　木　晴

一　院長夫妻岩村西内冨田君等高鍋町へ出張

二　岡山菅氏より大原氏宛の電報來る

三　午后八時大原氏宮崎着の電報來る

二十六日　金　晴

一　午后三時半大原氏柿原青野君伴ひ來原院長夫妻炭谷岩村君等共に皈原

二　午前木城村有志者津江市作氏外十名來訪大原氏の來原を待ち受け懇談二時間にして帰らる　一行より半紙一締寄附あり

三　夕飯後大原氏院長と共に塾舎及原野を巡視せらる

四　柿原正一君は赤ハゲの自宅に帰らる

五　夕刻より新藤君高鍋へ電報受取に行ク

二十七日　土　雨天

一　朝早く長野君高鍋町へ出張

二　朝食後大原氏は岩村君の案内にて山林及殖民村を巡られ十時

過ぎ出発木城、馬場原を經て高鍋町に行カる院長同行す
三　本日は軍馬補充部より土地検査に來る筈の處延期の通知來る
四　午后五時頃末藤君妻より皈原

二十八日　日　晴

一　午后六時頃長野君高鍋より皈原
二　小野田鎮君大分より來原
三　夜に日曜集会炭谷氏の話百田君の忠臣蔵の講談あり

三月一日　月　晴

一　午前十一時過高鍋婦人會員城氏外九名高鍋高等小学校補習科女生二十人及高橋升蔵氏來原婦人會より金五円寄付清藤タケ氏二円西村エキ子五十銭堀内ひさ子三十銭寄附ありたり
二　大工藤原羽原両君休業

〈欄外記入〉
木城村長友忠次郎ヨリ買入れたる同村下中原畑二筆合計一反五畝十三歩ノ登記済

三月二日　火　晴

一　新藤君学校参観の為め午前六時出発高鍋へ出張せられ午后八時半皈原
二　炭谷氏帰途に就く高鍋迄徒歩
三　岩村夫妻高鍋町に出張岩村君午后九時皈原
四　本日より高鍋道具小路岩村宅を高鍋運動の本營として院長茲に移らる
五　学校休業ス

三日　水　晴

一　長野君孤児新報原稿発送の為高鍋町に出張
二　新藤教師川南村多賀尋常小学校へ参観の為め出張
三　學校本日も休業

四日　木　雨天

一　宮崎町上村信子氏來原
二　長野高鍋町に出張

五日　金　曇

一　高鍋町黒水長平氏桑苗植付の件ニ付來訪午后七時頃より殖民村の連中へ同氏の桑苗植付の講話せらたり

六日　土　雨

一　長野君高鍋町に出張
二　黒水長平氏皈原

七日　日　晴

一　新藤教師生徒九名引連高鍋小学校にて催されたる教育品展觀

会に向ひ蚊口にも行けり主婦松尾阿部姉も共に行

八日　月　晴

一　上村信子氏帰宮せらる

二　小野髙田両主婦髙鍋町へ行カる

三　百田君耳悪るき子供を引連髙鍋江並醫師へ行カル

九日　火

記事なし

十日　水

一　小李校便所を作る

十一日　木　晴

二　軍馬補充部より二名上穂北村役場員一名交換土地検査の為め來原百田君案内ス

三　岩村君先日來髙鍋出張中なりしが軍馬補充部より來原せられたるに付皈原午后五時頃同伴に付再び髙鍋町ニ出張

四　宮崎家庭新社若山蔵六氏御夫人を伴ひ参観

十二日　金　雨

一　百田末藤二君髙鍋町より皈原

他に記事ナシ

十三日　土

一　末藤君上穂北へ出張

二　岩村君午后髙鍋町より皈原

十四日　日　晴

一　午前九時より児童の体格検査を行ふ

二　長野君髙鍋町ニ出張

三　岡山より塾舎修繕の為雇居し藤原羽原二君は結了したるに付午后五時より帰途に付

四　松隈事務員大分地方終り午后來原せらる

十五日　月

一　末藤君上穂北より皈原再び行カる

二　院長夫妻御老人を伴ひ皈原

十六日　火　雨

一　石井老夫人來原

二　院長岩村松隈三君は島内へ出張午后皈原

十七日　水　晴

一　石井老夫婦馬場原自宅へ皈らる

二　院長近々に本部へ皈らるに付午后七時より職員会を開らく

三　奉公生見廻を主婦に依頼する事に決す

十八日　木　晴

一　松隈事務員川南へ向はる

二　岩村君川南軍馬補充部へ行カれ午后八時半皈原

三　午后六時より殖民地連及事務員大工さんの晩餐会を開らく

十九日　金　晴

一　軍馬補充部員一名第二回賣上土地境堺検査の為來原せらる

二　院長夫妻高鍋へ引上らる

三　大工柄木政次君第六ライオン館仕事終りて皈宅せり

四　殖民隊七名郡有林仕立方に雇れ行ク

二十日　土　雨天

何事もナシ

二十一日　日　晴

一　岩村夫妻阿部小野高田長野高鍋町へ出張　三主婦は高鍋教会へ出席せられ夕刻皈原

二　末藤君午后上穂北村より皈原夕刻再び出張

二十二日　月　晴

一　小野田事務員活動隊足立小橋三宅四君川南より午后二時頃來原直ちに高鍋本營に行カらる

二　岩村君午后六時頃高鍋町より皈原

三　堀家午后十時頃女子出産

二十三日　火　雨

一　岩村君午前九時頃高鍋町へ出張

二　百田君通學生戸籍の件に付夕刻より高鍋へ出張

二十四日　水

一　新田村金丸畩一氏外一名参觀せられ金十銭寄附

二　本日より學校休業ス朝集會もナシ

三　百田君高鍋町より皈原

四　新藤教師夕刻より高鍋町へ行カらる

五　上江村河田製糸場にて本院活動写真会催さる

六　末藤君上穂北より皈原再び出張

二十五日　木　晴

一　木城小李校證書授與式に小野松尾二主婦出席せらる

二　長野新藤教師高鍋町より皈原

三　本晩は上江小李校にて活動写真会開カる

二十六日　金

一　長野、新藤教師高鍋町行く

二　今晩は上江村持田小李校にて活動写真会を開らる

二十七日　土

一　妻町國分菊子氏□□□の母を伴ひ來訪せらる

二　松尾主婦高鍋へ行カる

三　岩村君高鍋町より皈原

四　奉公生□□□□病気にて帰休す

五　本夜は高月製糸場にて活動写真会を開らく

二十八日　日　雨天

一　第六ライオン館本日午前中にて工事結了午后より井桁製作にかゝる

二　午后宮崎白井卯之助氏來訪せられ同町無名氏の寄附金二十円を持参せられ〔同夜〕（抹消）一泊せらる

二十九日　月　晴天

一　白井卯之助氏早朝宮崎に皈らる

二　院長夫妻午前十時岡山へ出発

三　午后岩村夫人松尾主婦長野皈原

四　末藤君上穂北より皈原

三十日　火　晴天

一　新藤教師高鍋より皈原

二　阿部高田二主婦下穂北三宅地方の生徒奉公先巡視せられ夜に入りて皈舎

三　佐土原小学校教師種子田伊左エ門高山與一一岐竹次郎三氏來觀金壱円を寄附せらる

四　井桁出來上る

三十一日　水　晴

一　末藤君上穂北へ主張

二　富高村牛田米蔵都農黒木光雄仝町黒木武文の三氏來觀

三　富田事務員河野事務員を伴ひ來原

四月一日　木　晴

一、午前十時ヨリ孤児院小学校證書授與式執行全合格者尋常三年七名仝二年十名仝一年二十二名合三十九名外ニ不合格十八名式終リテ一同ニ菓子ヲ分フ

二、本日馬屋ノ庭ニ唐臼ヲ据フ

三、午后六時ヨリ職員晩餐会ヲ開ク面白キ餘興等アリテ盛会ナリキ

二日　金、晴

一、富田事務員高鍋ニ帰ル

二、清原事務員都農慈善會収入ノ内百六拾圓持参セラル

三、独立孤兒□□□□ノ飼馬遂ニ死ス（先キニ仔馬ヲ産シ其子ノ柵外ニ出ツルヲ見テコレニ追随センカ為メ柵下ヨリ出デント欲シ腰部ヲ傷ツキ後脚起ツ能ハス茲ニ至リテ遂ニ死ス）

三日　土　雨

一、午后壱時ヨリ河野清原二君冨高町ニ向ケテ出発セラル

二、郡有林檜植付ニ雇ハレタル植民隊八名仕事ヲ終ヘル帰ル

四日　日

一、末藤君來ル八日上穂北村戦死者招魂祭ニ付本院活動写真会ヲ

催シタキ相談ノタメ皈原

五日　月　晴

一、末藤君上穂北へ出張

二、長野君、日向地方ノ収入ヲ當茶臼原孤児院ニ取受ルコトニ成タルト末藤君ノ希望ノコト等打合セノ為メ富高新町ニ出張

六日　火　大雨

七日　水　晴

一、新藤教師生徒引率高鍋出張

二、長野新町ヨリ皈原末藤君ノ希望行ハレス

八日　木

一、岩村氏高鍋蚊口寄附金募集ニ出張昨夜帰院

一、大工鈴木工事ヲ終ヘテ今夜ヨリ皈宅セリ

九日　金　晴

一、小野松尾二主婦上穂北地方兒童ノ奉公先ヲ巡視セラル

二、岩村長野高鍋町出張

十日　土

一、乙森妻町分署長ノ案内ニテ本縣事務官夫人亥角みち子赤十字社宮崎支部常務幹事佐田家親氏來観セラレ亥角氏貳円佐田氏壱円ヲ寄附セラル

二、軍馬補充部員大長氏第二回擴張地ノ件ニ付來院

三、岩村ハ高鍋末藤ハ上穂北ヨリ皈原

四、夜植民堀家ノ飼馬牝仔ヲ産ス

十一日　日

一、岩村高鍋出張

二、阿部主婦児童引率高鍋會堂へ行

三、奉公兒□□□□顛癇起リシ為帰休其代トシテ□□□□ヲ遣ス

四、赤十字兒湯郡支部総會ヨリ弁當六十四個寄附セラル奉公兒□□□□両人コレヲ運ヒ來リ一泊ス

五、日曜會末藤君ノ感話アリ

十二日　月

一、末藤君上穂北村出張

二、帰休中ナル奉公兒□□本日ヨリ奉公先へ皈ル

三、辰野高鍋町出張

四、午后西内天行先生妻町ヨリ高鍋ヘノ帰途立寄ラル院役者及植民地一同集会シ講話ヲ聞ク以後毎水曜日來院聖書講義アル筈

十三日　火

一、西内先生高鍋へ帰ラル

二、新藤教師眼病ニ付孝校休業

十四日　水　雨

一、坪井、林、藤原ノ三教師岩村ト共ニ來原職員一同事務所ニ集

リテ岡山ノ話ヲ聞ク

十五日　木　晴

一、朝集會三教師ノ説話アリ其後岡山本院校長亀山氏并ニ來原中ノ三教師ノ土産ノ紙石盤ヲ分配ス

二、三教師ハ當植民地及兒童奉公先上穂北村ノ一部ヲ巡視セラル

進藤教師案内ス

三、午后七時ヨリ三教師ノ歡迎会主婦一同及岩村氏にヨリ馳走食後雑談十時に閉会

十六日　金　晴

一、三教師午前七時ヨリ出發帰岡

二、岩村軍馬補充部川南支部へ出張

三、富田君髙鍋ヨリ來ル

四、調殿ヨリ募集セシ籾粟六俵來ル

十七日　土　雨

一、岩村早朝皈原

二、泥谷君來ル

三、縣会議員久保昌業氏外十一名并ニ新聞記者縣道巡視ノ途次來観セラル学校塾舎植民地ヲ案内ス

十八日　日

冨田岩村両人髙鍋へ寄附募集ノ為メ出張

十九日　月

新藤氏髙鍋出張

二十日　火

長野氏髙鍋出張。夜岩村帰原

二十一日　水

河野九八郎氏田代ヨリ金百円送付シ來ル

二、西内氏來原晝間ハ主婦ノ為メ夜植民地ノ為メ聖書講義

三、岩村長野両人上野ノ坂田諸忠持家ヲ視ル同人ト共ニ。末藤君穂北ヨリ來ル

二十二日　木

一　岩村穂北村役場ニ出張、軍馬補充部と土地交換の件ニ付。末藤氏集金ノ為メ同村へ向フ

一

二十三日　金

一　岩村百田長野第二植民地古家建築敷地見分

一　岩村穂北村役場へ出張

一　富田君午后來原夜分岩村氏モ共ニ髙鍋ニ行ク

二十四日　土

一　阿部髙田二主婦新田地方ノ奉公先ヲ巡視ス同地方ニ於テ黒木平太郎氏ノ兒童ニ対スル深キ配慮ヲ謝スル

二、長野高鍋ニ出張入院中ノ□□□□ヲ見舞フ同人ハ股肉内ニ腫物ヲ生シ山名医院ノ大手術ヲ受ケタルナリ
三、末藤君上穂北村寄附募集ヲ結了シテ帰原
四、小野組ノ□□左足第三指ヲ左ヨリ斜ニ右ヘ切リ割リ僅カニ皮ヲ残シタル大傷ヲナシタリ堀家栄吉□□□両人ヲシテ高城江並醫院ニ伴ヒ治療ヲ受ケシム

二十五日　日　晴

一、高鍋町安松禮蔵氏及其母カネ子外二名來観セラレ亡父禮蔵氏三回忌紀念トシテ金五拾円ヲ寄附セラル

二十六日　月曜

一、岡山ヨリ児女百人出發セシムヘキ旨書面來ル
二、百田君ハ高鍋ニ末藤長野二氏上穂北村下水流ニ出張橋口音次ヘ寄付米貮拾四俵半ヲ預ケテ帰ル
三、岡山ヨリ児童出發ノ電報來ル
四、夜職員及植民一同百人ノ児童ノ始末相談ヲナス

二十七日　小雨

一、末藤君出發岡山ヘ帰ル
二、百田君高鍋町ヘ出張児童來原の用務に就
三、來原兒童ノ準備トシテ炊事場及仮便所ヲ作リ。茶碗及野菜ヲ買ヒ

二十八日　雨

一、早朝長野兒童出迎ノ為メ細島ヘ向ケ出發
二、午后百田君高鍋ヘ行ク
三、午后二時兒童九十九名附添人主婦七名（下村久子、佐藤（空欄）子加藤エヌ子石田タリヨ子清岡（空欄）子浅田（空欄）兒玉トラ子）信永源次合八名無事細島港着兒玉禮三方ヘ宿泊

二十九日

一、岩村夫人午前高鍋ヨリ帰原岩村氏ハ夕方帰原
二、兒女ハ細島ヲ七時ニ出発男子馬車不足ニ付其半數及主婦ハ富高迄徒歩同所ヨリ乗車美々津ニ至リ百田君ノ出迎ヲ受ケ此レヨリ男兒ハ徒歩女兒ト主婦トハ都農迄馬車ニテ走リ同所ニテ一同中食全部（両三名ノ虚弱者ハ衣類ト共ニ馬車ニテ高鍋ヘ廻ル）縣道ニ出テタ刻ヨリ八時頃ニ至リ全部着原途中雨ニ逢ヒ傘ナク困難シタリ五塾舎及事務所ニ分宿セシム

三十日　晴

一　兒童ノ衣類ヲ乾ス

〈欄外記入〉
冨田村横江村□□□□着三時頃

五月一日　（土）

一、附添主婦七名及信永君馬場原石井老翁ヲ訪問

二、綾部寅太氏兒童奉公ノ事相談ノ為メ來院

二日　晴（日）

一、綾部君髙鍋ニ帰ル

二、信永長野荷物問合ノ為メ髙鍋出張

三、午后二時荷物全部着一同ヘ分配

四、綾部君夜再來

三日　（月）　雨

一、木城村ヘ男三名女八名奉公セシム岩村綾部石田主婦附添出張椎木岩淵此木髙城岩戸田上下鶴ヲ經テ帰院途中大雨ニ逢フ

二、新田村ヘ男十八名女九名畦原男五人ヲ奉公セシム渡辺筆次佐藤加藤清岡下村四主婦出張佐藤加藤両主婦ハ新田黒木氏ヘ一泊新田ノ廿六名ハ黒木平太郎氏ニ委頼シ畦原五人ハ黒木栄太郎氏ニ委頼ス

三、赤禿柿原正一君來院（河野新蔵氏同道）兒童四名ヲ托シテ遣ス

四、東臼杵郡北郷村大字宇納間岩倉烝氏ヨリ活動寫真会収入金百九円七十銭送來

四日　（火）

一、木城村及上江村ヘ男五名女三名ヲ奉公セシム綾部寅太君付添出張ス

二、上穂穂北村下水流ヘ男五名ヲ遣ス信永兒玉主婦付添出張青木喬ニ托ス

三、下穂北村赤池ヘ男児七名ヲ出ス□□□□下村清岡両主婦付添出張同所在住牛田源次郎ニ托ス此内一名ハ米良周三方ヘ先ニ奉公サセタル□□□□ト引代ヘタリ

四、上穂北平原ヘ兒童三名奉公セシム清水末吉君同伴

五、三納代（上富田村）ヘ三名奉公セシム□□□□君同伴

六、畦原ヨリ□□□□□ヲ送來ル其の儘引上

七、富田君髙鍋ヨリ來リ夜附添主婦ト共晩餐会ヲ開ク

五日　（水）

一、宮嵜郡恒久村太田久雄氏齋藤捨五郎氏ノ添書ヲ持シ其舎弟宗三郎ノ為メニ女兒二名ヲ所望シ來ル□□□□□□□□□□□ノ二女ヲ添ヘテ送ル

二、日置富田村地方ヘ男四名女四名ヲ奉公ニ遣ス綾部寅太君同伴

三、富田君□□□□□兒ヲ上江村髙月泉方ヘ同伴ス

四、佐藤兒玉両主婦下水流村奉公先ヲ訪問

六日　（木）

一、岩村夫人□□□□女ヲ伴ヒ髙鍋ニ出張□□□□□女モ同伴シ

菖蒲池黒田　方へ奉公セシム
二、下村石田両主婦宮崎ニ向フ
三、富田君帰途ニ就ク
四、綾部君女兒二名ヲ伴ヒ高鍋ニ帰ル

七日（金）

一、早朝付添主婦五名及信永君帰途ニ就ク岩村高鍋迄見送
二、松尾春平ト共ニ松尾主婦墓参ノ為メ高鍋ニ到ル

八日（土）

一、東臼杵郡門川村足立菊次郎氏ヨリ神門山陰等ノ慈善会収入貳百拾貳円拾七銭送り來る

九日（日）

宮嵜縣事ム官武井友貞氏親父死去ノ際香奠トシテ各所ヨリ贈ラレタル内金貳拾円寄附セラル

十日（月）

一、長野氏本部ヘ送金ノ為メ高鍋町ヘ出張

十一日（火）

一、長野氏為替金受取ノタメ妻町郵便局ヘ主張

十二日（水）

一、西内氏來原午后三時ヨリ主婦ノタメ夜ハ植民地連ノタメ聖書講義

十三日（木）

一、高城江並醫院ノ來診ヲ乞フ先日來不明ノ發熱或ハ腫物患者ヲ多ク出シタルカ為ナリ
二、岩村夜高鍋ヨリ帰ル院長ヨリ同人ノ問合ニ対スル茶臼原新タニ賣上クベキ原野反ニ付十五円畑反貳拾円ノ價格ニテ宜シトノ返電來リ其旨岩村ヨリ補充部ヘ回答シ事決定セリ
三、午後大工柄本政次來原古屋建築ノ為也

十四日

一、東米良村助役兒玉文三郎氏八重小学校長濱砂幸見氏來観金五拾銭寄附セラル
二、百田君綾部寅太君引率ノ奉公兒落着ヲ調ヘ方為メ高鍋出張帰途日用品ヲ買求メラル
三、岩村氏高鍋ヘ出張

十五日　土

一、請求ニ依リ臨時村会ヲ開ク議題ハ
㈠　尚少シノ肥料ヲ貸シ與ヘンコト即総計七俵代金貳拾参四圓也
㈡　桑苗植付ノ際用ヒタル肥料壱俵ハ黒水氏ノ談ニヨレハ各自ヘ投與セラル、筈ナリシヤニ聞ク相違ナキヤ院長ニ問合ヲ乞フト

一、及二ハ其望ノ通ニスルコトニ決ス

十六日　（日）

一、本日午後一時ヨリ児童ノ身體検査ヲ行フ各組共増量セシ者少シ

二、阪田ヨリ買入タル古屋ノ處置ヲ院長ニ照合ス

三、先月廿六日來昨日迄ノ日誌ヲ院長ニ報告ス

四、宮崎赤松嘉七郎氏來訪金壱円寄附

五、岩村髙鍋ヨリ返ル

六、泥谷氏小野田氏宛ノ手紙を持参

十七日　（月）

一、小野松尾髙田三主婦髙鍋ニ買物ニ行

二、日州新聞ニ送ルベキ穂北村寄附金報告ノ原稿出來

三、本日髙鍋ヨリ　荷馬車ヲ雇ヒ荷物ヲ搬フ積荷ハ古藤氏寄附ノ野菜及買入タル蔬菜　町立光寄附ノ下駄三十足

蚊口宇津宮政五郎黒木義友寄附ノ醤油貳斗

四、古屋建築終ル

十八日　（火）

一、佐久間氏より美々津慈善会先年開会ノ節ノ發起者并ニ傍近賛助員名簿ヲ送リ來ル

二、□□□□女杉安ノ鹿島徳治氏へ奉公セシム

三、軍馬補充部ヨリ第二回買上土地ノ測量ノ為メ雇技手來ル岩村立會実測スコレハ並木南ヨリ第三ノ並樹ト春牟田寄合山ノ両方杉見渡シ一直線ヨリ南部塚下及松太郎ノ谷ノ畑際ニ至ル原野二筆畑四筆ナリ

右技手手数料三円五拾銭請求ニ付渡ス

四、泥谷氏書状持参及軍馬補充部ヨリ理事印持参岩村出頭スヘキ通知ヲ持シ來ル

五、岩村夕刻髙鍋出張明日補充部へ出頭ノ為也

六、古屋屋根組出來

七、五月十五日發行ノ孤兒院新報着ス

十九日　水

一、大工柄本夕刻帰宅五六日後再來ノ筈

二、右同人へライオン館表札六枚注文ス

三、西内氏不参

二十日　木

一、長野買物ノタメ髙鍋出張

一　午后岩村帰院

二十一日　金　晴

一、軍馬補充部ヨリ実測ノタメ再來先測量遺漏アリシタメナリ

二、岩村午后上穂北村役場へ出張兒湯郡ヨリ桑苗補助金七円ヲ受

取リ來ル
三、小野組□□四十度以上ノ發熱□□ハ近々快
四、岩村夕刻高鍋ニ行

二十二日　（土）

一、泥谷君書状持参
二、小野組病人□□其他病人アルタメ江並医院ヨリ來診ヲ乞受
三、古屋屋根葺終ル
四、富田君大坂ノ状況ヲ報セラル
五、宮嵜巡査教習生二十名参觀セラル

二十三日　（日）

一、北諸縣郡志和地村内山甚五左エ門氏ヨリ事務員志願書來ル院長ヘ廻ス
二、午后植民地連晩餐会ヲ開ク議事ナシ
三、阪田家屋ノ件院長ヘ打電セシニ「フミミヨ」ト返電アリ

二十四日　月

一、妻町大阪屋夫人來訪金貳拾錢寄附セラル
二、岡山通信第五号着信
三、日誌ヲ院長ニ送ル

〈欄外記入〉

四、畦原ヘ奉公ノ□□□病氣ニテ帰ル

二十五日　（火）　半雨

一、長野病気ノ為メ百田君高鍋町ヘ買物ニ行ク院長十六日廿一日發ノ手紙受取帰ル
二、小野田鎮君延岡地方収支決算書持参セラル
三、岡山孤児院新報ハ五月限廃止毎年一月年報発行ニ決セル通知來ル
四、院長ヨリ阪田ヨリ買入ノ家ハアキ次第取運ノ件及植民地桑苗肥料ハ寄附スル考ヘハナカツタトノ返事來ル

二十六日　水　雨天

一、百田君木城村ヘ税金納方出張高鍋ニ廻リ野菜買入帰ル
二、□□□病気ニテ帰院高田組ニ入ル江並ノ診断ニ心臓及肺ニ故障アリト
三、奉公中ノ□□□□來院□□其他ノ子供ヘ金ヲ與ヘタル由阿部氏ヨリ話アリ何レ不正ノ金ナラン取調ヲ要ス

同二十七日　木

一、小野組□□全快ス
二、古屋建直シ（第二植民地）費縄代二円八十錢五厘中松木六十錢釘三十五錢屋根葺四人分壱円六十錢合五円三十五錢五厘□□□

□へ拂

同二十八日　（金）

一、測量師又來ル

一　午后ヨリ百田君出鍋表札催促ノ為メナリ

同二十九日　（土）

一、宮崎植村寫真師來院五軒ノライオン館及岩村通表門ヲ写ス

二、古屋建直シ成就

同三十日　（日）

一、堀家スミ子昨夜ヨリ大患ニ罹ル江並医院ヨリ來診序ニ院兒ノ診察ヲ受ク

二、夜小野阿部髙田三主婦ノ入院三周年紀念会あり

三、本日迄ノ日誌ヲ院長ニ送ル

同三十一日　（月）

一、岩村髙鍋ヨリ帰リ百田君ト共ニ木城村福永ヨリ買入レタル土地ヲ巡検シ再ヒ髙鍋ニ行ク

二、岡山本部へ蚊帳ヲ注文ス

六月一日　（火）

一、松尾主婦□□□□ヲ伴ヒ清藤眼科医ノ診察ヲ受ク

二、黒水長平氏植民地桑肥料ノコトニ付來院

三、正午西村信敦氏夫人ト共ニ來観金壱円寄附セラル

同二日　水

一、西内氏來院午后六時ヨリ主婦ノタメ路加傳講義　植民地連ノタメ引続馬太傳講義アリ

二、味噌醤油等買入馬車ニて運ふ

三、泥谷君書状を持來り

四、岩村君髙鍋ヨリ帰院

同三日　（木）

一、小野松尾両主婦木城村院兒奉公先十軒巡視

二、岩村君百田君院へ買入方申込アリタル花田彦馬ノ地所検分ニ行

三、柿原正一氏來訪

四、阿部主婦組児□□□□□□□ヲ奉公セシメ度旨申出ラル

五、植村写真館ヨリ写真ハ焼付済大阪へ送リタル由通知アリ

同四日　（金）　雨

一、松尾主婦清藤医院ヨリ□□ノ薬ヲ貰ヒ副食物ヲ買ヒ帰ル

二、百田午後髙鍋町出張各地開会決算廣告ヲ岩崎ニ渡

三、五月中日誌及収支決算慈善会ノ収支決算表ヲ大阪及岡山ニ送ル

四、岡山本部山田氏ヨリ新画帖百冊ヲ小包ニテ大阪ヨリ出ストノ

通知來る
五、岡山養育部へ「蚊帳送ツタカ」ト打電ス百田君ライオン館表札四枚持返ル

五日　土

一、泥谷氏左ノ電報持参セラル「岡山古村発、フミイマミタアスオクル」昨日ノ返電ナリ
二、木城村字下鶴村井瀬太郎氏より書面を添て□□□□女を返して來る「氣に入らぬか物を言ハす言ふ事を聞かす到底我方ニて教育出來ずと

六日　（日）　晴

一、上穂北小学校原田歓平氏島原覺蔵氏來観　末藤事務員募集ノ節未納平山重直（平原）ノ金壱円本部兵蔵（上野）ノ五拾銭トヲ持参セラル
二、泥谷氏三田井ヨリノ書留其他ノ郵書持参
三、西臼杵郡三田井郡役所内田尻謙次郎氏ヨリ五月三十日三十一日ノ慈善會純収百三拾九円四十銭送リ來ル（小野田）
総収一七二、八二円　支出三二、七一〇円　純一四〇、一一〇円
四、小野田鎮君本日西臼杵ヨリ高鍋ニ皈着
五、岩村君高鍋ニ往ク
六、□□又江並ノ手術ヲ受ケ清水ノ馬ニ乗セテ帰ル
七、午后一時ヨリ身体検査ヲ行フ気候不順ノ為メカ各組トモ量目増加セス
八、花田彦馬ノ地所一反歩多クトモ貳拾円以上ハ出セス如何可致カト岩村ヨリ院長ニ申送ル
九、本日迄ノ日誌ヲ院長ニ報告ス

七日　（月）　晴

一、長野君高鍋町ニ出張イリホシアゲ等買フテ帰ル
二、松尾主婦□□□□高田組ノ□□□□□二人ヲ清藤眼科医へ連レ行ク□□ハ大ニ快シ
三、軍馬補充部ヨリ高鍋岩村方へ申來ルハ第二回買上土地ノ事ニ付相談アリ石井院長ノ実印ヲ持シテ出頭スヘシト長野帰院新藤氏ヲシテ土地台帳ヲ岩村氏迄持行
四、浴場釜破損ノ為メ本日モ湯ナシ高鍋町ブリキ屋ニ新造ヲ注文ス
五、綾部氏へ奉公中ノ□□□□カ言付ヲ守ラストテ返シ來ル
六、□□□□是迄岩村氏預ノ處一昨日ヨリ高鍋警察署長若松氏方ニ奉公セシム
七、清原君準備ノ美々津ハ九日十日開会ノ筈
八、河野事務員ハ其親父危篤ノ為メ帰省セラル
九、大阪小野謹次郎氏ノ手翰　三日院長上阪当分事務所ニ司令部

ヲ置キ東洋救世軍の經営の為今後は孤児院ニ関スル書類ハ大阪事務所宛ニスヘシト

十、□□□□女ヲ高城町堀口直一氏方へ奉公セシム

八日　火　晴

一、軍馬補充部へ第二回賣上承諾書ヲ出ス

畑四筆一町三反四畝十八分反ニ付二十円原野二筆六町八二畝貳歩（壱反十五目）計金千貳百九拾貳円九十銭ノ筈

九日　水　曇

一、□□□□ヲ前川ニ托シテ畦原ニ遣シ奉公

二、百田君高鍋出張

三、本院週報第八号着

四、古村氏ヨリ蚊帳送リ出シタル通知及五月上旬六月上旬ノ献立表送リ來ル

十日　木　雨

一、事務員河野九八郎君親父御死去ノ由同氏ヨリ報知アリ

二、本日新藤君小学校生徒引率川南軍馬補充部迄遠足途中多賀小学校ニ立寄矢野熊太氏ヨリ素麺ノ馳走ニ預リタリ

三、寫真画帖百冊着ス

四、宮崎植村写真館ヨリ写真送付ノ通知アリ

十一日　金　雨

一、蚊帳到着ス

二、杉尾主婦□□□□ノ薬取ノ為出鍋

三、岩村氏ヨリ鯵八十尾寄附各兒一尾ヲ分ツ

四、植村写真館ヨリ写真到着

五、活動隊美々津ヨリ高鍋ニ帰リ小野田方宿泊

十二日　土

一、午后岩村君帰院

二、□□□□畦原ヨリ返サル

十三日　（日）曇

一、阿部杉尾小野三主婦□□□□□□ヲ伴ヒ木城村ニ奉公セシム（□□ハ老瀬□□ハ高城）他ノ奉公先四軒ヲ巡視ス

十四日　月　曇

一、一昨日迄ノ日誌ヲ院長ニ送ル

二、岩村夫人午后高鍋ヲ引上皈原

三、柄本大工午前來原古家造作ニカヽル

四、本部ヨリ朝礼会日誌六月一号二号着

五、美々津慈善会収入ノ内百五円受取

十五日　火　小雨

一、活動隊荷物着

二、岩村土地分割届ノ義ニ付上穂北村役場ニ出頭兼テ交換ニ定リ

居ル阿万家ノ地所中ニ家屋建築シタシ陸軍ニ於テ故障ナケレハ当方ノ承諾ヲ得タシト壱岐嘉三郎氏ノ同道ヲ乞ヒ阿万甚三郎翁ニ申込ム三次郎留守ニ付相談シオクトノコトナリシ

三、明夜寄附金ノ禮會即晩食ト活動写真ヲ以テ近隣ヲ招クコトニ決シ原無田講中ノ案内方ヲ寄合世話人織田ニ委頼センカ為岩村長野出張留守ニ付隣家織田茂四郎祖母ニ頼ミ置ク

十六日　水　晴

一、小野田清原足立小橋三宅五人來院

二、渡辺筆次氏ヲシテ上野百合野溜水土橋地方一般并ニ佐藤五郎三谷治四郎土橋ノ杉尾ノ老婆両人ヲ招カシム

三、午后八時ヨリ原無田十九軒植民連三谷佐藤來会ニ鮓素麺等ヲ馳走シ了テ活動写真ヲ馬小屋前庭ニ開ク十二時閉会

四、渡辺宗太郎（來会者原無田）金壱円ヲ寄附セラル

十七日（木）　曇小雨

一、小野田清原足立諸氏ハ他準備地ヘ出發小野田君ハ高鍋ニ帰ル

二、岩淵高須惣吉方奉公□□隣家高須喜太郎家子供ノ悪戯ヨリ事起リ両高須ノ口論トナリタル旨惣吉氏自ラ來告ケタルニ依リ手拭壱筋ヲ持シ中和ノ為メ岩村出張夫レヨリ兒湯郡役所ニ廻ル

三、尊父ノ危篤ニ付帰國サレシ河野九八郎氏帰院　氏ハ葬式ニサヘ間ニ合ハサリシ由

四、午后高田主婦□□を江並医院ニ連れ行く

五、岡山朝礼會日誌第三号到着

十八日　金　雨

一、松尾主婦□□ヲ伴ヒ高鍋清藤眼科ヘ行

二、上江村松尾氏阪田ノ家代ノコトニ付來原岩村氏不在ナリシ故高鍋滞在中ノ岩村宅ヘ廻リ残金受取方申込マル

三、大工鈴木喜藤次古屋造作ノ為メ來ル

四、夕刻岩村帰院

五、□□□□土佐ヨリ來ル農家奉公ノタメ

十九日（土）　曇

一、高城ニ奉公サセタル□□□□戻サル

二、清原君木城村ヨリ來ル同地ノ礼会（先キニ寄附金ヲ貰ヒタル）ハ旧五月五日即節句ニ開会スル筈ニ付打合ノ為メ小野田ノ方ヘモ廻ル

三、午后河野九八郎氏高鍋ニ行ク

四、上江村松尾亭一郎氏阪田諸忠ノ家屋壱坪拾円ニテ買入ノ約束ニシテ家屋取毀運搬濟ノ后代金仕拂ノ約ナリシモ今日迄両三回内金ノ請求アリテ既ニ九十円ヲ渡シタル残ノ分拂渡方昨日申込ニ付當方相談ノ上相渡スコトニ返答ナシ置キタルユヘ元先方ヨリ貳拾六坪アルユヘ貳百六拾円ナリト申出アリタレトモ先月阪田同道岩

村出張実検ノ結果貳拾三坪貳合五勺ナレハ其金高ニ達スル高百四十七円五銭ヲ拂ヒ渡スベキ旨ヲ答ヘ松尾氏コレヲ了承シテ帰ル銀行休暇ニ付明後日拂フコトヲ約ス

二十日　日　曇

一、長野妻町ニ買物ノ序ニ赤池ノ牛田源次郎方及奉公児□□□□□□ノ三軒ヲ巡視ス

二、岡山朝礼会日誌第四号着ス

三、山田本部事務員ヨリ西臼杵河野君（在上野）ヨリ誤送シタル金員ノコトニ付問合來ル（本部振替座ニ拂込ミタルユヘ）

四、河野氏佐土原着ノ通知來ル

五、足立君妻町準備ノ為メ出張

六、清原君木城村出張ノ途立寄ル

二十一日（月）曇

一、昨日迄ノ日誌ヲ院長ニ送ル

二、長野君諸用ノ為メ高鍋出張阪田ノ家代残百四拾七円五十銭支拂フ

三、小橋三宅器械類ヲ荷車ニ積ミ木城村ニ出行

四、足立妻町ヨリ來ル該地ノ有志者ニハ活動写真ヲ開イテ礼ヲナスノ必要ナシト云フモノモアリト一先中止シ上穂北ニ開会スヘシト

五、大工柄本鈴木両人共帰宅

二十二日　火　小雨

一、本日ハ旧端午節句ニ付奉公兒女（男三十四人女十五人）各々粽ヲ携ヘテ帰院ス何レモ無上ノ喜ヲ持シテ返ル

二、足立君上穂北ニ向フ

三、□□□□及□□□□ヲ中洲ニ還ス熱田君紹介

四、新藤教師早朝ヨリ島ノ内小学校参觀

五、岩村ハ木城礼會ノ挨拶ノ為メ出張本夕ハ木城小学校庭上ニテ開会ノ筈ナリシモ雨天トナリタル為メ校内ニ幕ヲ移シ開会ス長友賢偉氏開会ノ辞西内氏報徳話岩村挨拶ニテ活動写真ニ移ル開会中豪雨トナリタレトモ五六百ノ來観者ヲ得盛会タルヲ失ハス十二時過閉会

二十三日　水　雨

一、岩村木城ヨリ帰ル

二、河野君佐土原ヨリ皈ル

三、午后西内牧師來院午后七時半ヨリ主婦ノ為メ講話引續キ植民地連ノ為メノ講話アリ

四、島ノ内壱岐嘉三郎氏ヨリ阿萬ノ土地使用ノ件ハ差支ナシト申來ル

五、大工柄本來ル

二十四日　木　雨

一、宮崎縣知事高岡真吉氏ヨリ北堂英子死亡之際香奠トシテ受ケタルモノ、内トテ金五拾円寄附セラル

〈別紙糊付〉

拝啓倍御清祥

奉賀候陳者母英子

郷里ニ於テ逝去之際

本縣諸方ヨリノ寄贈

ニ對シ答禮ニ代ヘ乍些

少貴院所管本縣児

湯郡上穂北村茶臼原

農林部ヘ別紙目録之

通寄附致候間御經費

ノ一端ニモ相成候ハヽ本懐

之至ニ奉存候右御依頼

旁得貴意候　　敬具

六月二十日　　髙岡直吉

岡山孤児院長石井十次殿

二、小野主婦□□兒ヲ伴ヒ江並醫院ニ診察ニ行キ序ニ岩淵奉公先八軒ヲ巡視ス

二十五日（金）晴

一、河野君誤テ岡山ヘ送リタル金ノ内ヨリ足立、三宅、小橋ノ手當差引送リ來ル

二、院長ヘ知事ノ寄附金ノ件ト阪田ヨリ買入レタル家屋ハ塾舎トスルカ客舎トスルカ其建築場所ハ何レニスルカト申送ル

三、松尾主婦清藤医院行

四、本日島ノ内礼会挨拶ノタメ岩村出張會ハ庭上ニ開ク助役鹿島徳蔵氏開会ノ辞及同村婦人会ヨリ特ニ慈善市ノ上リ高ヲ寄附スル旨ヲ述フ次ニ岩村挨拶前日ノ大雨ニテ穂北川漲リ渡舟困難ノ為メ北方ヨリノ來会無シ然トモ七百位ハ集リ盛会ヲ得タリ

五、本部ヨリ□□□□□□□両人農家奉公ノ目的ニテ來ル

二十六日（土）雨

一、岩村島ノ内ヨリ帰ル

二、□□□□□ヨリ鳥目ナルト無言ナルト到底仕事ヲ仕込ム見込ナシトテ近隣ノ人送リ來ル

三、百田君髙鍋行買物シテ帰ル

四、朝礼会日誌第六号到着

二十七日　日　晴

一、百田君倉庫二階ノ掃除
二、岩村夫人午后ヨリ高鍋行
三、清原君ヨリ富田村着ノ通知來ル（富田村字富田成合ミネ方）
四、足立小橋三宅ノ諸氏島ノ内ヨリ高鍋ニ帰途立寄
五、夜阪田ノ古屋運搬ノ件ニ付相談会ヲ開ク工事当番渡辺筆次君ニ馬車受負ノ事ヲ原無田上野下水流妻町等ノ馬車組合ニ談セシム取毀ハ七月一日着手ノ事ニ決ス

二十八日（月）

一、小野松尾主婦江並医院へ□□ヲ伴ヒ行序ニ木城方面奉公生視察
二、午后岩村夫人高鍋ヨリ皈
三、今夜高鍋町ニテ礼会開会ニ塲ハ稱専寺

二十九日　火

一、上ノ井戸ヨリ小野組迄筧ヲ作ル
二、泥谷氏釣瓶ヲ持参セラル
三、本日モ仝所ニテ礼会相開ク

三十日（水）

一、本日ヨリ家取毀ニ取カヽル大工柄本ト岩村出張戸障子取外シ塗壁落シ柱敷居等凡テ番号ヲ付シ敷居戸袋等ヲ取外ス
二、百田君夕方同所ニ至リ宿番ス
三、□□□上江村老瀬野中寅太郎方ニ奉公セシム主人自ラ來リテ伴ヒ帰ル小野松尾両主婦巡視先ニテ約束シタルモノナリ
四、本夜ハ高鍋村高鍋尋常小学校ニテ礼会開会ノ筈

七月中

一日　木　晴

一、植民地連并ニ岩村□□□□ヲ伴ヒ家取毀ニカヽル
二、馬車運搬ハ春牟田、中原長蔵ト家屋諸材料ヲ五日間ニ運搬スル事運賃ハ貳拾五円仕拂フ事トヲ昨日契約シ本日ヨリ運搬ニ取カヽラシム畳戸障子等ヲ運ヒ來ル
三、午后岩村ハ本夜開会スヘキ蚊口村ニ出張　会ハ称名院ニ開ク堂内寸分ノ餘地ナク庭上立観ノモノ多シ
四、清原君妻町ヨリ皈原同所ハ來ル三日ニ決シタリト云フ
五、大工鈴木風邪ニテ休業夕方ヨリ帰宅

二日（金）雨天

一、本日雨天ニテ家崩ハ休ミ百田氏見廻ニ行
一、岩村氏夕刻高鍋ヨリ皈ル

三日（土）晴

一、□□□□ヲ畦原池田松太郎方へ奉公セシム　紹介者堀家利吉引率者ハ黒木栄太郎

二、阿部小野主婦高鍋町ニ買物ニ行序テニ同地方奉公先七軒ヲ巡視シ午后九時帰院
三、新藤教師学校用品購買ノ為高鍋出張
四、岩村午后五時頃ヨリ妻町ノ礼会ニ出張同所ハ清原君ノ準備ニシテ下穂北村長児玉峰太郎ノ賛成ヲ得各部區長ツレテ開会ノ通知ヲナサシメ愛國婦人會諸姉慈善市ノ催アリ會場ハ劇場ニシテ主旨村長コレヲ演ヘ寄附ノ謝礼奉公人ノ世話孤兒院將來ノ同情等ニツキ岩村コレヲ演ヘ會衆貳千餘名ニ上リ大盛會ナリシ十二時閉会小野田鎮君モ臨会シ説明ヲナセリ
五、本日モ阪田ノ家崩シ植民連出働
六、小野田君夜妻町ヨリ來宿
七、□□□□畦原ヨリ戻サル

四日（日）晴雨相半

一、小野田君午后ヨリ新田村ニ出向ス
二、午后一時ヨリ兒童ノ身體検査ヲ行
三、今夜下穂北四日市米良周三方ニテ礼会ヲ開ラク生憎降雨アリ道路泥濘ノタメ会衆二百位ナリ最初ニ岩村挨拶シテ清原君ノ説明ヲ以テ活動写真ヲ映シ十二時閉会一同同氏宅ニ宿泊ス
四、大工柄本政次夕刻帰宅

五日　月　朝雨

一、今日家屋材料運搬ナシ百田君一人出張荷カラケヲナス
二、岩村午后帰院
三、□□□□□新田村字山ノ坊三浦義男方ヘ奉公

六日（火）曇

一、大工柄本鈴木両名來リ筧作リ
二、百田君浅清原阪田家屋ノ處ニ行
三、柄本大工夕刻ヨリ高鍋ニ帰ル

七日　水　雨

記事ナシ

八日　木　半晴小雨

一　家屋材料上道具ハ馬屋ノ二階ニ上ケ下道具ハ肥料小屋ニ取片付

九日　金　半晴

一　倉庫ノ裏手水除ヲ掘リ土橋ノ架替ヲナス

十日　土

一、岩村土地分割届出來上リタルヲ以テ上穂北村役場ニ出頭シテ差出シタル
二、阿部主婦高鍋行
三、新藤長野両名買物及寄附取纏ノコトニ関シ綾部氏ヲ訪フ

十一日　日　雨

一、活動写真会ヲ新日村ニ開ク筈
二、蚊口岩切鹿造ヨリ味噌四十貫萩原ヨリ醤油六斗ヲ買ヒ荷馬車ニテ運搬ス
三、岩村夫人杉尾小野主婦新藤教師赤禿柿原氏ヘ建築祝ヘ招待サレテ行黄昏帰院

十二日（月）

一、浴湯釜出來岩村氏ヨリ買入レタル玄米六俵ト共ニ馬車一台ニシテ運到ル
二、岩村君新藤君小学校設置ノ義ニ付高鍋ニ行
三、足立君本庄高岡ヲ準備中ナルカ両地共都合宜シトノ通報到ル
四、阪田ノ家屋材料運搬本日結了馬車賃支拂濟

十三日（火）晴

一、□□□□奉公先漆山ヨリ戻サル其主人送リ來リタレトモ少シモ□□ヲ批難セス只同シ様ナル子供二人ナルユヘ一人ハ返シ度ノコトヲ述ヘタリ
二、午后ヨリ新藤教師生徒ヲ率ヒテ穂北川ニ游泳ニ行
三、鈴木大工浴場ヲ修繕ス
四、岩村氏夕刻高鍋ヨリ帰ル
五、小野田事務員ノ新田村開会報告ニ同所大盛会婦人会連ハ自ラ餅ヲ搗キ餅菓子ヲ賣リテコレヲ寄附セラレタリト十二日佐土原十四日富田村ヲ終リテ本庄ニ向フ筈ナリ

十四日　水　晴

一、□□□□穂北下水流橋口梅太郎方ヘ奉公
二、□□□□□ハ杉安長谷川忠吉方ヘ奉公セシム

十五日　木　晴　暑九十二度

一、金森通倫氏本縣属官桑原氏及郡学務係齋藤氏同道ニテ参觀金森氏ノ言ニ当所ハ空氣清爽甚健康ニ宜シ此空氣ノミニテモ幾何ノ價アルヤヲ知ラスト又云此處ヲ歩行ス恰モ北海道ノ山野ニ在ルノ心地スト
二、島ノ内黒木氏ニ奉公セシ□□□□ハ同家ヨリ戻サル過日來主人ガ云フ同人ハ商家ニ適セス農家ニ奉公セシムルニ如カスコレ本人將來ノ為ナリト熱田ニ告ケタル由熱田ヲシテ今日引取ラシメ直ニ四日市牛田源次郎ニ頼ミ同所伊東傳助方ニ奉公セシム去月中彼レカ金銭ヲ阿部組ノ子供ニ分與シタルナトハ不明ナレトモ黒木氏ヲ戻サルヽ個中ノ消息ヲ伺フニ足ラン乎且ツ本人ハ母ヨリ時ニ帰國ヲ促ス由ナレハ其母ニ渡スヲ勝レリトス可シ
三、夕刻西内氏主婦ノ為メ聖書講義夜植民連ノタメニ講義
四、夜植民連ト会食ヲナス

十六日　金　晴　正午九十二度

一、陸軍〃馬補充部高原支部川南出張所長伊澤信一氏宍戸鉄馬大

長曹長外二名原野視察ノ序立寄數時間休息中食ナド濟マシテ曹長連ハ三名馬ヲ連ネテ浅清原方面ニ向ヒ伊澤宍戸両氏ハ馬車ニテ帰ラル

岩村大長曹長ニ第二回買賣約束地ノ分筆願云々ノコトヲ談シタルニ今回差出シタル買上約束ノ分ハ全部本省ヨリ却下ナリ川南ニテ二百餘筆ハ解約シ此原野モ多分解約ノ筈也コレ本省ニテ土地買入資金ヲ建築ニ流用シタルニ其建築費亦大不足ニテ如何ニセント困リ居ル模様ナリ尤僅少ノ地買入資ハアリサレド多分ノコトハ出來ス全体戦後經営三ヶ年ト極リ居ルユヘ此年度内ニ為スコトヲ得サルトキハ後年如何トモ為スベカラスナドノ話アリテ我院ノ第二回ノ地所ニ就テハ明答ナカリシ今日実地ヲ見タル上決定スルモノナランカ

十七日（土）晴　九十四度

一、長野氏及岩村夫人早朝高鍋出張
二、新藤氏宮崎ニ於ケル金森通倫氏ノ聽講ノ為メ出張
三、清原氏ヨリ富田ノ寄附五拾餘円ノ為換來ル

十八日（日）　九十四度

一、今日阪田寄附ノ馬屋取毀ニカヽル植民連七名馬車仲原長蔵及渡辺忠兵衛忰貳台ニテ一切運濟
二、泥谷氏マッチ洗シャボン等ノ買物ヲ携帯來院
三、杉安ニ奉公シタル□□□□□足痛ニ付迎ヒニ來ルヘキ由通知アリ熱田ヲ雇ヒ馬ニテ迎ヒ帰ル

十九日（月）　午前晴　午后白雨

一、松尾高田両主婦南高鍋村字神祭野〃長谷富田村日置〃三納代等ノ奉公児ヲ視察シ夜十一時帰院
二、新藤君朝七時宮崎ヨリ帰院
三、昨日取崩シ運搬シタル諸材料并ニ第二植民地普請塲ノ残材料取形付ノ為植民七名働ク
四、渡辺忠兵衛ノ忰木城河原ヨリ土砂運搬井手傍タヽキ用也
五、玄米白米籾等ヲ原無田源蔵及忠兵衛ヨリ買入
六、□□□□女背ニ腫物ヲ生シ養生ノ為メ杉安ヨリ帰ル

二十日（火）晴　九十度

一、事務所井戸傍土持上ケタヽキノ下地拵
二、□□□□下水流ヨリ戻サル
三、□□及□□□□両名高城江並医院ニ治療ニ遣ハス
四、清原氏ヨリ富田村ノ決算書來ル
五、昨日迄ノ日誌ヲ院長ニ送ル

二十一日　水　晴　九十三度

一、井戸傍タヽキ成就
二、清原河野足立小野田ノ四氏ニ暑中見舞ヲ出ス

三、岡山ヨリ第十三号通信來着
四、小野及松尾主婦新田村巡視夜十二時帰院
五、木挽留次郎籾櫃板挽割

二十二日

一、□□□女□□□□送戻ス言フコトヲキカヌ為メナリ
二、□□□□兒下ツル杉尾政吉郎婆ニ送戻サル
三、西内氏來院側を通講話了ツテ十時半出發帰宅
四、清原氏ヨリ東諸縣郡綾着通知及画帖五十冊至急送レト貳通ノハカキ來ル尚河野君ハ倉岡へ準備ニ出張サレタリト書添ヘタリ
五、植民地連菓樹園ノ耕耘
六、木挽昨通板ヒキ割
七、大工昨夕帰宅今日不來

廿三日（金）晴

一、□□□□女帰院髙鍋警察署長若松氏保安課長ニ轉任不用トナリタルカ為メナリ尤以前此兒ハ言フ事ヲ聞カストノ小言ヲ聞キ居タリ、又帰院ノ際泥谷新氏令嬢エイ子ノ傘ヲ持シテ來ル吟味スレハ若松氏ニニテ同様ノ日傘ヲモラヒ居タリ引越ノ際泥谷氏ニ運ヒ呉レラレタルモノト思ヒ持チ來レリト答フ
二、小野田鎮君來院佐土原ノ決算書持参同日帰鍋
総五四、一九円　純四一、五、五
三、綾部寅太氏上江村寄附金決算ノ為メ來ル
現金一八九、二二〇　玄米二石一斗四二（代金二五、一六八）白米五斗貳升二五（代金七円五銭四厘）籾七斗七升五（代金四円六十五銭）合計貳百貳拾六円九銭貳厘
四、大工木挽共不來

廿四日　土　晴天

一、午前泥谷氏石油罐ノ代金受取ノ為メニ來ル
二、□□□□、□□□□、□□□□ノ三人來原
三、岩村綾部両人髙鍋行
四、岩村愛子夕刻來原
五、長野新藤両人新田村役場へ出張慈善會ノ集金六拾壱円七拾三銭五厘ヲ受取リ來ル

二十五日（日）晴

一、宮崎郡生目村谷德三郎氏來観金五拾銭ヲ寄附セラル
二、髙田阿部両主婦髙鍋会堂ニ出席
三、新田村山ノ坊三浦義男夫人奉公人雇催促ニ來ル
四、岡山縣赤磐郡仁堀村字平山□□□方□□□□ヨリ□□□□□ノ退院ヲ乞ヒ來ル
五、岩村帰院
六、綾町小野田鎮君ヨリハカキ來ル「同地ハ廿四五両日足立君ハ

廿四日出發帰岡今后ノ豫定地ハ有水高城都城志布志福島油津ノ方面ニナリマス云々

廿六日　月　晴

一、□□□□□腫物全快杉安ニ帰ル

二、松尾小野両主婦新田村下穂北ヘ出張

三、同便ニ□□□□ハ新田村藤山矢野角太方ヘ□□□□ヲ同村山ノ坊三浦義男方ヘ□□□女ヲ四日市米良周三方ニ伴ヒ奉公セシム

四、石井キワ子岩村愛子高鍋ニ帰ル

五、木挽留次郎板挽キ

六、牛田源次郎松尾小野両主婦ヲ送リ來リ一泊

七、在穆佐河野九八郎氏來信海岸地方ハ不漁ノ為不景氣故内地ヘ集ル豫定ナリ当地ハ廿七日一夜開会三百餘戸ノ小村ナレトモ同情盛ナリ云々

廿七日（火）　晴

一、今日岡山事務所ヘ塗札ト旧賛助員名札挿帳三四冊ヲ注文ス（塗札ハ三百枚）

二、大阪院長ヘ通信ヲ發ス前週日誌及□□□□女ノ仕末問合也

三、□□□□□母ヘ旅費送レバ□□□ヲ送リ戻ス旨申送ル

四、木挽留次郎板挽午前ニ相済ミ午后根太小割木取第二植民地古屋新築ノ後ニ於テ

五、牛田源次郎□□□□ヲ伴ヒ帰ル四日市地方ニ奉公セシムル筈長友伴之助方ヘ奉公セシメタルノ報後チ至ル

六、綾村清原氏ニ（ハガキニテ）富田村集金残未着故新聞廣告見合セ居ル旨通信ス

七、□□□女眼病療養ノ為岩淵ヨリ帰來

八、上江村寄附金廣告ノ下調及原稿成就

九、夜主婦一同事務所ニ會シ

一、蒲団洗濯ノ結果縦來備付之古物ハ皮破レ肉裂稀ケ再用ニ堪サルモノ凡ソ三割減ノ見込ニ付全キ者廿五枚程送付ヲ本部ニ請求スル事

二、蒲団古皮或ハシーツ用トシテ四布ツヽキヲ五十枚程請求スルコト

三、一ツ身ノ単衣多少ニ拘ハラス請求スルコト

廿八日（水）　晴天

一、高田主婦□□□女ヲ伴ヒ高鍋清藤眼科医ニ行

二、岡山本院ヨリ週報第十四号着

三、都農村役場内金丸佐盛氏ヨリ子守一人希望之書面來ル

四、木城村岩淵岩切治太郎預児□□□□□義虚言ヲナシ夜宅ニ帰ラス近隣ノ湯殿ヤ大豆畑ナトニ夜ヲ明スナト手ニオヘヌコトノミナレハ暫時當方ニテ教育ヲ頼ミ度由申來ル中ニ□□□自身ノ親ハ

死ニタレハオマヘハ真ノ親ニアラス大人ニナレハ自身ハ他所ヘ行ナド、云フユヘ妻モ楽シミナシト言ヒ居ル由ヲ述ヘ学校休暇ニナレハ伴ヒ來ルベケレハ何卒宜シク頼ムト云ヒテ返ヘレリ

五、佐土原新田上江各村ノ寄附金品廣告原稿ヲ岩崎君に依頼す

六、小野田鎮君ヘ新田村寄附金ヲ受取タルコトヲ綾村河野君氣付ニテ通知書ヲ發ス

廿九日（木）曇小雨数〻行上リ雲暴風ノ前兆ノ如シ

一、新藤君今朝出發大阪岡山ヲ經テ嚴島夏期学校出席ノ途ニ上ル

二、□□□□畦原ノ奉公先ニテ金五円〇五銭ヲ盗ミタルコト露顕シ前川使トシテ百田君ヲ招ク栄太郎等仲裁シテ無事相濟マシ本人ノ荷物ヲ携帯シテ帰ラル本人ハ先ニ出テタル由ナレトモ夜十時頃ニ至リテ帰リ來ル但金員ハ未タ消費セス全部ヲ返却セリト

三、右同人ノ為メニ大阪石井ヘ左ノ電報ヲ發ス「□□□□□□□□□ヲホンマシュンペイカアイカワカツジニタノミテハイカガ」

四、岩村夫人高鍋ニ行　□□女出養生ノ宿ヲ祇園町齋藤八五郎宅ニ頼ム同人快ヨク諾ス

五、清原君ヨリ宿所通知來ル（北諸縣郡高城町野崎旅館）

三十日　風雨東北ヨリ到ル

一、大阪院長ヨリ友愛社規則書送リ來ル

二、漢和大字典東京三省堂ヨリ送リ來ル

三、東諸縣郡綾村田中友連氏ヨリ同地慈善會決算書及為替送リ來ル

総収五三、四四円　純収三三、五五円　一〇、…円準備渡

為替金高貳拾三円五十五銭也

三十一日（土）風雨　風向更ラス

一、□□□□□肺病療養ノ為メトテ釜山ヨリ來着

二、新田村山ノ坊三浦義男氏來院同家奉公兒□□□□□近來胃痛ニテ苦シミ居ルニ付医師ニ診察サセ服薬サスレトモ昼夜間断ナク痛ム故不寝ニ看護致居次第ナレハ万一ノコトアリテハ不相濟鳥渡通知ノ為メニ來レリ又一度医師ニ診セシメ動カシテモ差支ナシトナレハ明日頃若者ニ舁カセテ送ルベケレハ当分貴方ニテ養生ヲ頼ムトノコトナリシ

八月中

一日　日曜　風雨

一、風雨方向ヲ改メス昨日ノ通尚東北ヨリ來ル夜雷電松尾組ハ雨漏甚シク高田組阿部組ハ東北即チ後面擔下ヨリ吹込ミ衣類ヲ湿シタルモ小野組ハ東北ニ松林アリ地勢宜シキカ為メ風雨ヲ知ラサルモノ、如シ只便所ニ至ル途中ノ窓ニ戸ナキカ為メ雨ヲ吹込ミタルノミ

二日（月）雨尚止マサレトモ東南風ニ変シ勢殺ケタリ

一、泥谷新氏來原足立小野田ノ郵信ヲ携フ

二、岩村高鍋ニ石井翁ヲ見舞フ（午后出發）

三、足立菊次郎（七月廿八日付岡山門田屋敷二〇二）本荘高岡の集金百拾円及佐土原集金の内拾圓（外ニ五拾壱銭ハ切手にて送る筈）合計金百貳拾圓郵便為換にて送り來る諸傳票は後便送付の由書状中に「高岡は大失敗」と大書しありたり

四、小野田君來状の要旨（都城上町野口旅館

同地ハ夏蚕期中なると劇場なきとニて適当の会場なき故暫時延期ヲシ山之口高城庄内三股等に開会すへき考の由都城にて郡長及坂本縣会議員の賛成あれとも右の始末ニ付他村落ニ添書を貰ひ受たりとあり

河野九八郎氏ハ八月七日迄ニ点呼の為帰郷する筈と申添へたり

五、東諸縣郡綾村田中友連の送金ニ対する領収書及礼状を出せり

六、岡山本部へ新田村の礼状名簿を送る

（村長及愛國婦人会は書状其他組総代ははかきのことを申送る（ママ）

七、北諸縣郡高城町野崎旅館清原君へ綾村集金領収の通知を發す

八、都城小野田君へ新田村集金領収を通知す

九、岡山足立君へ為替受領書を送る

三日（火）晴雨不定

一、新田村山ノ坊三浦義男氏方令娘及下男付添□□□□を送り來る同人腹痛未止

二、清原氏「北諸縣郡高城村野崎旅館」より通信

一行北諸縣へ進入南行するに縦ひ茶臼原を知らさるもの愈々多く従つて同情薄くして戦闘益困難なり新聞紙の應援を希望すと

三、宮崎郡赤江村字恒久太田宗三郎氏より

もりじかの原二女共丈夫ニてダン〳〵仕事ニも慣れ又此頃ハ仕事に依て日々二三銭つゝ貯金をさせ居る處二女共それか樂しみの様子なり兎に角落付居る故安心して呉れと申來る

四、赤池牛田源次郎、□□□□女を伴ひ來る米良氏宅ニハ只二日間居りたるのミにて牛田宅に入込居たり牛田の言を聽くなれハ他家ニ入る之筈なりしも一向言ことを聞さるゆへ連れ來れりと

五、又同牛田の談に仝村ニ居る□□□□□妻町祇園祭に店屋の金を盗ミたりとの疑を受け巡査より厳敷取調られし由

六、岩村の二娘及石井きわ女來原夕刻岩村夫婦馬場原より帰院

七、今日迄ノ日誌を院長に報告す

四日（水）小雨時々行る風向尚東北ニ在り

一、泥谷氏大阪鐵難波驛ヨリ石井發親父宛ノ電報「キヨウチヨツコウニノリカエル」ト又本院ヨリ塗札及カードブックヲ送り出シタ通知書とを持参せらる

二、長野君清水に馬を牽かせて石油明罐と為換金受取のため高鍋出張
三、小野田鎮君より穆佐の決算書及郵便為換金
四、草薙信より（八月一日梅田郵便局にて）はかき來る
「當市北區全部丸焼け支部も全様昨夜吾等四人應援隊として参る
石井夫婦事務員行衛不明市中大こんざつ一寸しらす
五、□□□□今朝本人の望の家に奉公することを許し出したる
六、□□□□□出發本院ニ帰る
七、今朝未明□□□□何れへか影を隠せり午前長野高鍋への出掛黒藤ニ於て同人ニ出會同人ハ日州活版所へ働かんとの希望ニて行きたる由なれと口なしとて茶臼原ニ帰る途中なりし由、夜十時過帰院

五日　木曜　晴天

一、長野百田堀家熱田等石井院長出迎ノ為メ出發
二、夕刻草薙信君來着石井一家ト同船シテ今朝細島ヨリ先發トシテ來レルナリト
三、松尾主婦□□□□女ヲ伴フテ出迎ノ為高鍋行
四、午后十二時百田君帰院長野ハ高鍋泊百田君等都農町北方ニテ石井院長ト其家族ニ出會一緒ニ帰宅シタルナリト國道筋大橋小橋流失シテ甚困難ヲ極メタリトノコトナリ
五、今朝□□□□ハ宮崎ニ向ケテ仕事口求ノ為メ出發
六、□□□□女ハ石井宅ニ働クコトニナリタリ

六日（金）未明ヨリ北方ノ風及強雨

一、西内天行氏ノ端書畧　前週ハ下痢今週ハ咽喉カタル六日ヨリ約二週間毎日講演之筈ニ付テハ大に戦闘力ヲ養置ノ必要云々
二、新藤氏三十一日ノハカキ「暴風ニテ船ハ來ラス仕事ハナシ困却云々八月二日八時出ノハカキ「琉球丸テ今立ツ」
三、岩村夫人石井キワ子雨ヲ侵シテ石井院長ノ許ニ向
四、長野氏松尾主婦帰院
五、□□□□□女新田ヨリ戻サル盗心アリテ終始止マス故ニ返スト途中ニテ長野受取帰ル
六、都農村金丸佐盛氏ニ返書ヲ送ル是ハ過日子守一人所望之照会方したるよし

七日（土）雨　東北風依然

一、□□□□奉公先ノ主婦ト共ニ來ル同人義主婦ノ言フ事ヲ用ヒスト双方ノ意ヲ聞クニサシタル事ニモアラス双方ヲナダメ言ヒ聞カセシテ帰ス
二、出身者會ヲ聞キ今昔ノ懐旧談アリ
三、□□□□□奉公先ヨリ大橋宅迄戻サル

八日（日）依然シケ模様ナリ

一、百田岩村小野髙田等髙鍋行小野氏發病途ヨリ帰ル髙田氏モ中止
二、草薙出發帰途ニ就ク
三、第十五号岡山週報來着
四、都城小野田君ヨリハカキ來ル同地方河水汎濫ニテ運動上困難ヲ極ムル旨也又日程ハ庄内八月八日三股十一日十二日高城十三日十四日ノ筈ト
五、堀家西村熱田ノ三人荷物取寄ノタメ美々津町へ出張

九日（月）依然荒天氣

一、堀家外貳人今日帰院
二、今日右便（郵カ）ヨリ半鐘來着
三、□□□□（□□）宮崎橘町松崎屋旅館ヨリ書面來ル　大意先キニ畦原ニ於テ盗ヲナシタルハ自分が畦原ニ奉公セル当時其家ノ主人彼レハ盗心アル由ナリト近所ノモノニ咄シスルヲ聞キ吃度当事務所ニテ吹聽サレタルモノト思ヒサスレハ幾度奉公スルモダメナレハ寧ソワザト盗ヲナシ奉公先キヲ去リ孤児院ヲ去ルノ考ヘニテシタルコトナリト
四、清原氏瀧下郵便局長ヨリ送付アルベキ同地方ノ慈善会寄附金之義ハ其後未着ナルヤ先日自分知合ノ巡査ヘ密ニ調方ヲ依頼シタル別紙ノ如キ返翰來レリ故ニ一應相送ル若シ送金未タナレハ警察問題ト可致歟如何ト申來ル（別紙）若木仁作氏ノ書信抄　早速聞合候處既ニ送金せりとの事ニて当人ヨリ直ニ詳細之事申送るへしとの事ニ有之未た書状到達無きや送金濟み云々多少疑ひ無きにアラザリシモ今回は深く聞く事を為さす只至急本件之始末返事する様談し置き申候尚乍此上返事モナク実際送金モシ居ラサル場合は重て御通知下サレ度其場合ハ小生ヨリ充分ナル掛合ヲナシ相當措置致さしむべく云々

十日（火）雨　風向昨日ト同シ

一、昨日泥谷新氏へ大阪同情館へ宛蓄音機ノ一部ヲ送リ寺田商店ニ修繕サスルコトヲ依頼ス
二、小野田君ヨリ來状近來天候険悪ノタメ八日開会豫定ノ庄内ハ延期シ尚ホ他地方トモ日取未定ト申來ル
三、松尾主婦□□□女（眼病患者）を伴ひ髙鍋町祇園町龍原八五郎氏ニ預ケ清藤眼科へ通ハシメン為メ出張

十一日（水）雨

一、小野田君清原君ニ手帋ヲ出ス小野田君ニハ慰藉清原君ニハ瀧下局長ヨリ未タ送金モ通知モ來ラストノ返事
二、東臼杵郡瀧下郵便局長高見民弥氏宛禮状并ニ同氏ノ取纏メ呉レタル金ハ如何處置シタルヤ聞合
三、石井キワ石井友両人來院

四、松尾主婦帰院岩村夫人モ同上
五、七曲リ水車宇田津音平來（午后三四時頃）只今□□ト申児童來リ使フテ呉レト云フ使フテモ差支ナキ申ト當方答テ云尚幼ニシテ足ルマシケレトモ使フテ貰ヒタシト然ラハ使フテ見申サントテ帰レリ

十二日（木）大雨　風向変セス

一、長野百田奉公兒名カード作ニカヽル
二、清原君（高城）ヨリハカキ來ル院長到着セルヤ」近來天候不穏ノタメ困難ナレトモ死力ヲ出シテ働キ居ル趣
三、本方氏ヨリ石井宛ノ封状來ル
四、午后杉山小ザラヘ　植民連一同并ニ□□□□

十三日　金　雨　風向変セス

一、カード成就
二、杉山小サラヘ

十四日　土　少晴

十五日　日　雨

一、諸縣郡高城小橋宗三郎氏ヨリ病氣見舞ノ礼状來ル同人ハ全快之由

十六日（月）

一、庄内岩佐彦二氏ヨリ同地慈善会ノ決算書及郵便局為換券ニテ九拾五円五拾八銭送來
二、庄内小野田君ヨリ本荘高岡ノ結算（ママ）書來ル是ハ岡山ヘ帰リタル足立氏ガ同所ヨリ送リタルモノナリ
三、小野阿部高田三主婦石井老人ノ病氣見舞ノ為メ高鍋ニ出ラル
四、本部ヘ都農美々津ノ同情家ヘ水害見舞状差出方ヲ依頼ス
五、院長ヨリ用事申來リ岩村氏高鍋出張
六、原無田黒木國造忰及岩切亀太郎忰両人畑開墾願ニ來ル
七、右國造方ヘ桃木窪ノ荒地開墾ヲ許可ス鍬下年期三ヶ年ノ定メ

十七日（火）少晴

一、岡山週報第十七号着
二、大阪新藤教師ノ通信來ル夜学受持ツ間ニ京都奈良見物ヲ為シタル趣
三、北諸縣郡高城清原君ヨリ寄附衣服（子供〈羽織〉袴一單衣一ライオン券一小包ニテ來ル
四、川南軍馬補充部ヨリハカキニテ當院内井戸ノ深浅ヲ尋ネ來ル
五、杉安池田勝蔵氏來院先達ヨリ□□□□ヲ雇ヒ居リシモ不用故戻ストノコト是レハ先ニ雇ヒ居タル子供病氣ニテ帰リ居タルモ治癒シテ再勤申込ミ來リシユヘ梅吉ハ不用トナリタルナリ依テ若シ□□ヲ雇ヒタキ人アラハ任セルユヘ脇方ヘ遣シ呉レテモ宜シト申

置ク

十八日（水）小雨

一、軍馬補充部ヘ井戸ノ回答ヲ出ス

二、同部ヨリ高鍋岩村方ヘ使ヒ來リ十三日付ニテハカキヲ以問合セスルコト返答ナキユヘ直接承リタシトテ井戸ノコトヲ問ハル冬期夏期ノ水深等巨細ニ岩村ヨリ答ヘ置ク

三、本荘慈善会廣告ヲ岩崎氏ニ依頼ス

十九日（木）晴

一、午前十一時院長木城村ヲ經テ着原

二、夕刻仝夫人來原

三、富田村八幡豊島善太郎氏ヨリ來書兒女雇入申込及同村慈善会之際寄附金壱円領収セシヤ否問合同便ニテ同村下城元高山初太郎及土屋藤太郎氏ヨリ十三四才男子申込ミアリ

四、大阪新藤教師ヨリ通信ハカキ來ル

五、福岡縣田川郡後藤寺三井本洞塚本林作氏ハ□□□□□宛ニテ退院出來ルカ問合來ル塚本氏ハ元大任炭坑ノ納屋親ナリト

二十日（金）少雨

一、岡山本部事務所ヨリ当支部ヘ水害見舞ハカキ着

二、大阪同情館柿原君ヨリ見舞及新藤教師ヘ立替金通知來ル

三、院長及夫人高鍋ニ行

二十一日（土）

一、富田村豊島氏ヘ断状ヲ出ス

二、福岡縣後藤寺塚本氏（一昨日來状）ヘ実親ニアラサレハ院兒ヲ引渡サヽル旨回答ス

三、大阪柿原君ヘ（昨日來状）返事タス

二十二日

一、午前新田村中村長友金太郎氏來院奉公兒ヲ求メラル□□□□□ヲ依託ス

二、先達來ノ小野主婦ノ病氣未タ治セス

三、夕六時頃阿部組□□□□ノ井戸ノ水ヲ汲マントシ釣瓶ニ引カレテ井底ニ落ツ直ニ引上レハ只腰以下水ニ湿シタルノミニシテ幸ニ負傷ナシ

二十三日（月）晴

一、長野高鍋ヨリ帰ル

二、岩村氏城ヶ崎町太田佐七郎娘両人同伴帰院

三、百田氏高鍋出張

四、高田主婦高鍋町出養生ノ□□□ヲ見舞ハル餘程快方ノ由

五、杉ノ中小サラエ

六、黒木源蔵ヨリ買入レタル籾代仕拂

二十四日（火）雷鳴夕立催

一、今日蕎麦乾燥之為メ庭中ニ攤ケ唐簸ニカケ叺ニ入ル四斗俵ニテ十四俵ト三斗四升アリシ
二、杉ノ中小ザラエ
三、小野主婦胸痛ニ付高城江並ノ代診來ル兒童両三名モ序ニ診察ヲ受ク
四、午前八時頃長野髙鍋主張
五、大工鈴木喜藤次今夜帰宅

二十五日（水）雷鳴夕立催

一、午前七時半鈴木大工來ル
二、無名氏参觀金拾銭寄附セラル延岡人ナル由
三、午前岩村夫人愛子清子太田ノ姉妹両人方召連レ髙鍋行

二十六日（木）小雨

一、本部ヨリ美々津へ水見舞状ヲ出セシ通知來ル
二、本部週報十八号着
三、宮城縣加美郡色麻村平沢字山下□□（地名）番地□□□□□方□□□□□□（□□ノ母）□□ノ帰國ヲ乞フノハカキ岡山本部ヨリ廻リ來ル
四、北諸縣郡都城上町野口旅館小橋活動技師ヨリ廿三日發ニテ六、七月分勘定傳票着
五、□□□□□□□□□□□両人今日出發即里親元へ帰ル江差婦同道

二十七日（金）雨

一、大阪同情館ヨリ蓄音機修繕出來上リ送リ來ル
二、鈴木大工帰宅

二十八日（土）半晴

一、大分縣東國東郡武蔵町帰省中ノ河野九八郎君ヨリハカキニテ十三日ヨリ大病ニ罹リ漸ク昨日ヨリ粥一二杯喰ヘル様ニナリシ旨通知又小野田兄ハ何處ニ滞在カ尋ネ來ル
二、新藤教師宮島ヨリハカキ二枚來ル
三、岩村愛子午后來院賄取拵
四、今日ハ旧暦七月十三日ニテ盆節季ニ當ル

二十九日（日）半晴　旧七月十四日盂蘭盆

一、□□□□ノ奉公先ノ老人同兒同伴來観
二、新田村伊倉重永治助氏方ヨリ□□□□□子ヲ伴ヒ戻シ來ル兎角病身ナリト
三、奉公兒約二十名盆休ニ來ル女兒ハ五人
四、岩村夫人今日午前帰院來集児女ノ賄ヲ事務所ニテ全部取拵フ

三十日（月）夕立來ル　旧十五日

一、午前七時岩村帰原
二、盆祭ニ付奉公兒女約三十人來院一泊シテ帰ル

三、高鍋瓢箪小路竹原氏裕美同家奉公兒女□□□□ヲ伴ヒ参觀セラル
四、□□□□□病氣ニテ帰院

三十一日　晴　八十九度

一、今日上穂北ノ奉公兒三人盆休ニ來ル
二、新田村奉公兒女□□□□昨日來院一泊シテ同勢ト共ニ帰村ノ途發病シ□□□□女□□□女等負フテ復ル日射病ナラン吐ヲナシ快方ニナル
三、小野田鎮君家族母子五人來原ス分教場ヲ掃除シテ居住ノ處トス
四、岡山週報十九号着

九月中

一日　水

一、高田、阿部主婦兒童引率蚊口濱遊出張
二、松尾主婦及岩村愛子高鍋行
三、富田村大字日置野中、中村寅一妻及同村今別府清畩平妻両人來リ兒童所望中村寅一方ニハ□□□□（今日同兒高鍋行ニ付明日同地ヨリ集レル兒童ト共ニ遣ス筈）清畩平方ニハ□□□□ヲ遣ス
四、上日置并ニ下日置ノ奉公兒五人女兒貳人盆休ニテ來院女兒ハ前ノ中村寅一妻等ト共ニ來リ又共ニ帰ル男児ハ一泊
五、兼テ照会中ノ東臼杵郡瀧下郵便局長高見金弥氏送金遅延ノ詫状來ル一両日中ニ送金スヘシト云フ
六、□□□□女ノ結婚式ヲ高鍋ニテ執行ニ付岩村夫妻高鍋行
七、新藤教師午前十一時厳島ノ講習會ヨリ帰着午后郷里ニ帰省

二日　木　晴

一、日置村奉公兒五名小林ヲ伴ヒ院長ニ見ヘントテ高鍋ヲ經テ帰村
二、原無田□□□□□外三軒ヘ奉公セル兒童四名及他ノ兒童ト昨日陸軍〃馬補充部所有地内ニテ草刈シタルヲ見咎ラレ明日川南補充部出張所ヘ來ルベキ由申付ラレタレハ孤児院ヨリ詫ヲ致シ呉レヨト其雇主等ヨリ申出タレハ宜シク取計フヘキ旨百田君ヨリ在高鍋岩村ヘ申來ル岩村ヨリ當家主人直接來ルヲ至當トスト答ヘヤル
二、石井岩村両家族蚊口行

三日（金）晴

一、今日夕方原無田主人連四名兒童ヲ引テ岩村宅ニ來ル岩村引連レ部長伊澤氏宅ニ至ル未タ帰宅ナシ時刻晩ク雨亦降リ來ラントスルユヘ人々ヲ返シ我一個ニテ侘セント云ヒテ分ル

四日　土　晴

一　今朝岩村伊澤部長ニ面シ侘ヲ申込ミ尚川南ニ至リ大長曹長ニ

同様申込ム未タ警察署へ報告前ニ付内分ニ事ヲ濟マサン然レトモ主人等ヲシテ明日來所セシムル様トノ依頼ヲ受ク

二、□□□□女其新夫□□□□ヲ嫌ヒ今日破約トナル□□ノ兒□□モ立会

三、石井友シンキワ岩村愛子ノ四嬢今朝岡山ニ向ツテ出發

五日（日）夕立

一、堀家帰原ノ便ニテ原無田連ノ出頭ヲ促ス午前十一時出鍋添書ヲ遣ス

二、百田氏髙鍋出張

三、髙田小野阿部三主婦髙鍋教会へ出席夕刻岩村夫人同道帰院

四、□□□女モ眼病癒ヘテ帰院

五、□□□□□農業目的ニテ大阪ヨリ岡山ヲ經テ昨日來原目下少〃脚気気味

六日（月）夕立

一、兒湯郡農会技手長嶺要氏西内藤男君ト同伴來院園藝講話（林檎梨密柑栽培并ニシャム製造法等）アリ主婦教師事務員コレヲ聞ク中食、晩餐ヲ饗ス

二、畦原□□□□□同所□□□□同伴來院孤兒院出身同地方奉公兒□□□□外八名陸軍地内ニテ草刈致シ見咎ラレタルニ付補充部ヘ侘申入呉レ為様申來ル夜ニ入（十時過）又三人同伴ニテ來リ警察ノ呼出状來リタレハ明朝同道頼ムト申來ル

三、小学校授業開始

四、□□□□今日ヨリ土佐國香美郡ノ実母ノ許ニ還ル

七日（火）晴夕立小雨

一、今朝畦原連應援ノタメ岩村髙鍋出張夜帰院

二、松尾主婦日射病ニテ吐瀉腹痛

三、市納村ヨリ子供所望ノ為三人來院

四、西内氏今日髙鍋ニ帰ル

八日（水）晴　午后雷鳴大雨

一、北諸縣郡長喜多秀一郎宛同都城裁判所長津曲謙宗宛礼状差出

二、新田郡役場ヨリ越馬場大組ノ寄附金送致ニ付受領證及礼状差出ス

九日（木）曇　午后雷雨

一、東諸縣郡長有川定一同郡書記柚木崎才二同郡農会副会長海老原隼治外七名參觀

二、宮崎師範学校生徒高橋政光（飫肥東郷村人）河野智衛（穂北妻町人）両人參觀金五拾銭寄附セラル

三、西諸縣郡小林村農会技手西田時盛氏外五名行脚旅行ノ序參觀西田氏金五拾銭寄附

四、長野会計夜分帰院

十日　晴　夜小雨

一　今日阿部組北側屋根葺換清水堀家渡辺西村熱田ト外ニ春牟田長友辰吉雇入

二、髙橋竹千代氏來院

十一日（土）曇　二百廿日ニ當ル

一、事務所後ノ柿木園草ハキリ西村熱田清水大橋永児渡辺ノ六名

二、□□□□□畦原兒玉勘次郎方ヘ奉公前川辰吉同道

三、髙城江並医院ノ代診ヲ招キ□□□□□ヲ診察ス□□□□□モ同様

十二日　日曜　東北ノ風暴風ノ兆ノ如シ

一、新藤教師髙鍋行

二、阿部高田両主婦教会行

三、松尾組北側下手分屋根換

四、岩村髙鍋行

十三日　月　曇

一、新藤教師粉瘤切開ノタメ山名醫院ヘ入院

二、岩村帰原

三、清原氏（北諸縣郡山ノ口村前田スミヱ方）ヨリ通信來ル

四、小野田君ヨリ（都城上町野口旅館）ヨリ運動日割通知アリ

五、河野九八郎氏郷里ヨリ出デ來髙鍋一泊

十四日（火）西

一、百田氏帰原

二、石油壱箱買入百田氏持返ル

三、桶屋ヲ雇輪替ヲナス

四、河野氏都城ニ向フ

十五日　水　晴雨相半

一、石井院長夫婦來原

二、長野モ帰院

三、□□□□□比木ヘ奉公ノ處鳥目ニテ帰院

十六日　木

一、昨夜□□□□□生栗ヲ食シテ下痢シ大ニ畳夜具類ヲ汚ス

二、清原氏（都城上町野口旅館）ヨリ冲水村慈善会純収入ノ内六拾八円三十七銭送リ來ル

十七日

一、院長、岩村、百田家敷地鑑定ノ為メ見廻ル序ニ花田彦馬ヨリ買入相談中ノ地所検査ノ為メ小浪ニ至ル

二、夜主婦会食

十八日

一、夜植民地連ト會食

十九日

一、石井院長高鍋出張所へ轉居長野会計随行
二、第二植民地ニ建テタル古屋造作ノ為メ大工柄本政次氏來原仕事ニ着手ス
三、院長会計及各主婦第二植民地ノ古屋ニ於テ來ル十月ヨリ院兒壱名壱ヵ月ノ費用ヲ金貳円ツヽニテ濟マサント決議シ各主婦ニ現金ヲ以テコレヲ一任スルコトト為ス

同廿五日

一、松尾組ヲ第二植民地ニ建テタル古屋ニ移轉セシム
二、小野田事務員家族元松尾組跡ニ移ル

〃廿六日

一、高鍋教会ニ於テ親睦会開会ニ付阿部高田小野ノ各主婦出張
二、新藤教師退院帰原

〃廿七日

一　花田彦馬所有地木城村字小流原并ニ影ヶ平下中原等ノ處ニテ宅地田畑原野合斗貳畝四反貳拾七歩并ニ建物三棟買受登記濟
二　□□□□□眼病ニテ奉公先ヨリ帰院ス出養生ノ為メ岩村宅ニ預ク

同廿八日

一　石井院長出發高鍋ヨリ岡山本部ニ帰ル

十月中

八日

一、岡山ノ古村氏ヨリ電報「オホコジ一〇メイカキハラト一〇ヒタカナベヘツク」
二、岡山ヨリ花田地所代トシテ五百五拾円ノ小切手來ル
三、小野田君飫肥へ向ケ出發

九日

一、長野高鍋ニ出張孤兒出迎ノ相談并ニ日向銀行へ小切手ノ金員受取方依頼ス

十日

一　午後四時柿原政一郎同道ニテ男児七名女児四名來ル長野小野高田松尾阪部ノ各主婦高鍋ニ出迎徒歩ニテ茶臼原ニ着

男児　□□□□□　□□□□　□□□□　□□□□　□□□□
□　□□□　□□□
女児　□□□□　□□□□　□□□□□　□□□□□

十一日

一、□□□□□ヲ原坦方ニ奉公セシム

十二日

一、上日置井好外吉□□□□ヲ送リ還ス
二、岡山へ五百五拾円ノ受取証ヲ出ス

三、病児□□□□髙田組ヨリ事務所ニ帰ル
四、小野田君十日付端書來ル九日夜油津開会十日ハ雨天ニ付延引トナリシ由
五、清原君通信（福島村布施旅館）十月八日付ハカキ同地準備ニ取カヽレル趣ナリ
六、長野事務員綾部寅太氏ヲ川南ニ迎ヘ來ル今回來着孤兒女ノ奉公先ヲ定メンカ為メナリ
七、□□□□先キニ逃走セシカ其後各所流浪中妻町巡査送リ來ル

同十三日

一、富田村大淵兒玉チサノ方へ□□□□ヲ奉公セシム
二、□□□□再ヒ逃走ス

同十四日

一、綾部寅太奉公セシム可ク兒女四人ヲ伴ヒ日置地方へ向フ
二、新田村柳瀬猪俣國三郎氏來院豫約奉公兒□□□ヲ伴ヒ帰ラル同氏金壱円ヲ寄附アリ
三、兒童イロハ別名簿ヲ認ム
四、清原君通信十三、十四、十五ノ三日ハ中町小学校十六日ハ今町ニテ開会ノ筈

同十五日

一、綾部寅太氏午後帰院
二、元阪田ヨリ買入古屋建築用礎石三拾三個運搬スミ
三、今夜植民地連会食
四、今夜熱田國松小浪ニ轉居スルコトニ決ス付テハ家屋修繕等ハ植民地連手傳フコトトナル
五、肥料代トシテ植民地ヨリ受取ルベキ籾代金ハ比處十日ヲ期シ壱俵貳円十銭之タルベキコト
六、植民地連ハ各植民地ノ通路修繕ヲ寄附スルコト
七、□□□□□ノ姉□□□□ヨリ當分□□□ヲ引取ル見込ミナケレハ如何様トモ教育頼ムト申來ル
八、油津警察分署長島田親廣氏ヨリ石井院長見舞ト共ニ同地慈善会ノ景況報告セラル

同十六日

一、綾部君奉公生□□□□、□□□□、□□□□□、□□□□ノ四人ヲ引率シテ川南村ニ出張

同十七日

一　妻町日曜学校生徒三十五人河野兵次郎氏ニ引率サレ参観サル甘藷ノ馳走ヲナス河野氏金壱円ヲ寄附セラル

同十八日

一、上穂北尋髙小学校教員外四名同校尋常三等以下ノ生徒貳百名程引率参観セラル

二、三納村大町某氏参観セラル
三、綾部寅太君夕刻來原
同十九日
一、岩村高鍋出張花田彦馬氏ヨリ買入レタル地代金五百五拾円ヲ仕拂フテ帰ル
二、同夫人ハ松尾主婦同道ニテ児童ノ衣服地買入ノ為メ高鍋町ニ出張シテ帰ル
三、綾部長野等奉公兒巡視ノ為メ出張春牟田ヲ始メトシ上穂北地方ヲ卒ヘ夜帰院セリ
四、清原君通信十三・・・十七四日間終リ十八日北方小学校ニテ開会ノ由
五、柿原政一郎君來院
六、岡山通信廿六号來
同二十日
一、岩村綾部長野三名同道奉公児巡視ノ為メ出張杉野囲石抜童子丸ヲ經テ鳥子ニ至リ妻町ニ一泊
二、南那珂郡市木村河野事務員ヨリ通信に油津大盛会シ好結果ニテ閉会唯今市木村準備中
三、飫肥教会内足立君ヨリ通信仝君再ヒ九州軍ニ参加ノ由
同二十一日
一、岩村綾部長野三君下穂北村奉公児巡視シ佐土原ニ一泊
二、本院地域内ニテ収穫セシ柿壱千個児童ニ分ツ
同二十二日
一、岩村綾部長野ノ三君新田村巡視中降雨ノ為メ帰原
同二十三日
一、本日奉公児巡視ヲ休ム
二、百田君高鍋町へ不用官林拂下ノ廣告ヲ調査ニ行カル
三、上江村中原分教場教員一名生徒三名下穂北教員七名生徒三百五十名参観セリ
同二十四日
一、岩村上野綾部三名畦原、赤禿、新田ノ方面ヲ巡視シ福島ニ一泊ス
二、岩村夫人□□□□□子及主婦四名赤禿柿原氏方へ招カレテ行ク
同廿五日
一、岩村綾部長野三名大淵、三納代、日置方面ヲ巡視シ下日置ニ一泊ス
同廿六日
一、阪田ヨリ買入ノ古屋改築地ノ石搗ヲ始ム（音頭取リヲ招キ來ル）

二、午後五時頃冨田村小学校尋常五年生男女六拾名ヲ貳人ノ教員引率シ來観サル
三、岩村綾部長野三名高鍋方面ヲ巡視シ綾部宅ニ一泊ス

同廿七日

一、本日改築地ノ石搗ヲ了セリ
二、岩村綾部長野三名木城村ノ巡視ヲ了ヘテ帰原

同廿八日

一、奉公児巡視ヲ休ム
二、綾部氏事務所前ノ道路ヲ修繕セラル

同廿九日

一、岩村綾部長野三名高城タケク岩戸大内方面ヲ巡視シ大内中武氏宅ニ一泊ス
二、殖民地ノ連中軍馬補充部作業ニ雇ハレテ行ク

同三十日

一、東諸縣郡本荘村谷口国松氏奉公兒雇入ノ為メ來原サレタリ依テ□□□ヲ委托ス
二、□□□ヲ木城村川原黒木紋市氏方ヘ奉公セシム
三、□□□□□モ仝上永友與三吉氏方ヘ仝断
四、岩村綾部長野三名川南村方面ヲ巡視シ通山ニ一泊

同三十一日

一、岩村綾部長野三名上江村方面ヲ巡視シ帰原ス

十一月中

一日

一、岩村綾部長野三名新田村藤山、瀬口ヲ巡視シタリ本日ヲ以テ奉公児巡視ノ事務結了ス

三日

一、小学校々庭ニ於テ天長節祝賀式執行式終テ児童ニ菓子ヲ分配ス仝午後六時ヨリ院役者晩餐會ヲ催ス
二、冨田村大淵ニ奉公中之□□□□大火傷セシ通知ニ接シ百田事務員出張

四日

一　□□□□ヲ迎ヒノ為メ殖民地ノ者三名出張連レ帰ル

八日

一　長野事務員ハ其恩人上村行清氏病氣危篤ノ趣電報ニ接シテ夕刻ヨリ宮崎ニ赴ク

十二日

一　長野事務員宮崎ヨリ帰院
一　本院地域内ノ柿ノ実ヲ児童ニ分配ス
三　馬場原ヨリ参觀ニ來ラレタル森夫人一行ノ方々ヨリ反物類及寄附セラル尚仝行中ノ川田製糸場女工数名ノ方ヨリ金五拾銭寄附

セラル

十五日

一　長野事務員夫人女子分娩母子共健全、郡役所ヨリ留岡幸助氏來院アル旨通知ニ付大掃除ヲ為ス

十四日

一　改築家屋ノ棟上ケヲ為ス

一　岩村主婦帰院セラル

十六日

一　内務省嘱托地方講師留岡幸助氏縣視学石神氏郡書記河野満吉氏西内氏も仝行來院

十九日

一　改築家屋ノ屋根葺キノ為メ屋根葺職人來院

二十一日

一　大阪ヨリ□□□、□□□□、□□□□三子來院

四十三年六月廿七日（ママ）

十二月中

七日

一　岡山ヨリ活動隊高橋並川事務員來院

八日

一　來原ノ活動隊ハ川南村方面ニ綾部事務員ノ準備サレタル各村落ニテ開催スル為メ出發ス

二　飫肥ノ日高孝平氏紹介ニテ孤児□□□□入院松尾組ニ編入

廿日

一　クリスマスノ相談会ヲ開ク決議ノ事項ハ奉公児ヲ招集スルコトヲ止メ單ニ在院児丈ケニテ祝祭執行スルコト、奉公児ハ來ル一月二日ニ招集スルコト其際藁細工ノ品評会ヲ開ク為メ手製ノ品ヲ持参スルコトノ二項ヲ通知スルコトクリスマスハ來ル十二月廿七日開催ノコト帰郷ハ一児童ニ對シ金五銭ツヽ給與スルコト

廿六日

一　旧阪田氏ヨリ買入ノ改築家屋工事落成ス

一　小野田、足立、清原、三宅、事務員帰院

廿七日

一　院長夫婦西内天行氏高橋升蔵氏來原

二　清原高橋並川事務員帰院

三　昨日落成シタル家屋ニ於テ昼餐會ヲ催ス會スルモノ石井院長、高橋西内両牧師岩村小野田長野清原足立綾部高橋三宅並川新藤ノ各院役者及殖民地ノ各主人連九名列席セリ

四　殖民地ノ婦人連ハ事務所ニ於テ饗應ス

五　午後二時ヨリ学校ニ於テ聖誕祝賀式執行司会者新藤教師西内牧師ノ祈祷院児□□□□聖書物語、院長ノ挨拶高橋牧師ノ講話其他院兒ノ祝辞對話暗誦數番アリ三時半頃歓ヲ尽シテ無事閉会

六　高橋牧師ハ妻町ノ祝賀會列席ノ約アリトテ式後辞シ帰ラル

七　午後七時ヨリ改築家屋ニ於テ夜會ヲ催ス新藤教師ノ司会ニテ院児ノ暗誦對話唱歌活人画其外大人連ノ隠藝モ現ハレ午後十二時迄連續シ無事閉会セリ本年ノクリスマスハ茶臼原開原以來未聞ノ大盛會ナリト云フ

廿八日

一　河野事務員帰院

廿九日

一　殖民地連ヲ雇ヒ各塾舎ノ餅搗ヲ為ス

二　清原事務員岡山ヘ帰ル

三十日

一　來ル一月二日開催ノ藁細工品評會ニ付テ院役者ノ相談會ヲ開ク

決議事項　一　原下各村落ノ有志者ヲ招待スルコト　二　大会食ヲ為スコト　三　準備ノ為め各員部署ヲ定ムルコト　(1)品評會審査員ニ上穂北村長黒木氏妻町木下義雄岩淵ノ柄本重義新田村黒木平太郎日置村長田廣吉上江村綾部寅吉の諸氏ニ依頼ス　(2)司会者岩村事務員　(3)接待掛ニ綾部寅太小野田鎮河野九八郎　(4)受付掛長野米吉高橋止才夫並川源太郎運動会委員新藤留幸足立菊次郎ト定メタリ

二　午後三時頃岡本貞一子永眠

三　長野事務員買物ノ為メ高鍋ヘ行ク

四　午後八時岡本子ノ葬式ヲ為ス遺骸ハ地域内ノ墓地ニ埋葬ス

五　殖民地ノ連中ノ餅搗キ

三十一日

一　小野田新藤両事務員高鍋ニ行キ協力者招待ノ書状發送ノ為メニ行ク

一　百田事務員郷里ニ帰ラル

四十三年（ママ）六月廿七日

冨田村三納代辻　□□□草刈　男一名